

国立国語研究所学術情報リポジトリ

雑誌九十種資料の漢語表記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮島, 達夫, 高木, 翠, MIYAZIMA, Tatuo, TAKAGI, Midori メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001060

雑誌九十種資料の漢語表記

宮 島 達 夫

高 木 翠

ここで分析の対象とする資料は1956年の雑誌90種からぬきだした、のべ約44万語（β単位）の表記である。この資料による調査の結果は、すでに国語研究所から3冊の報告書となって発表されている。（国立国語研究所報告21, 22, 25『現代雑誌九十種の用語用字』）雑誌の種類や調査の方法など、くわしいことはこれらの報告書をみていただきたい。

これらの報告書は『現代雑誌……』という名をもっており、その後もこの調査または資料をさして「現代雑誌九十種の調査（資料）」とよぶのが普通である。しかし、これらの雑誌が出版されてから現在までにはすでに20年たっており、これをいまさら厳密な意味での現代の表記資料だとするのは適當ではない。おそらく、いまの雑誌についておなじような調査をしたとすれば、表記について、かなりちがった結果がえられるだろう。戦後における表記法のはげしいかわりかたをおもえば、この資料はいまやむしろ歴史的な価値をもつものとみるべきかもしれない。また、この調査資料の表記については、国研報告22『現代雑誌九十種の用語用字（第二分冊）』にくわしい結果がでている。にもかかわらず、いまあらためて調査したのは、つぎのような理由があるからである。

- (1) 大規模な語彙調査の報告で、まだこの水準をのりこえるものがないこと。国語研究所がおこなった大規模な、手作業による語彙調査として、これは最後のものであり、このあとは電子計算機による調査にかわっていく。そのため、調査の規模は大きくなり、速さは増したが、厳密さという点では、初期の段階での電子計算機に課したかぎりでは、手作業のときよりもおとっている。たとえば、「金」は「かね」と「きん」とをよみわけることができないままに、それぞれおなじ单語としたし、一方「早速」と

「さっそく」、「椅子」と「いす」と「イス」とは合併することができずにはそれぞれ別の単語とされた。このまま、さらに手をくわえることなしに厳密な表記調査をおこなうことはできない。

(2) 表記の実態を見るには雑誌が適当であること。

国語研究所では雑誌のあと新聞や教科書の語彙調査をおこなっている。これらは、日本人の言語生活のなかでおおきな比重をしめ、影響力が大きいといいう点からみてたいせつな資料である。しかし、どちらも編集部がかなり意識的に表記を統制したうえで世に出るものである。したがって、日本人が実際にどのような書きあらわしかたをしており、おなじ単語の表記に、どのようなゆれがあらわれるか、といったことをみるには、あまりいい材料とはいえない。この点、雑誌は、編集部による統一はあるにしても新聞や教科書よりはずっと筆者の自由にまかせる度合いがたかいとみられ、実態（うえにのべたようにすでに過去のものであるが）をみるのにつごうがよい。

(3) これまでの報告ではたりない点があること。

『現代雑誌九十種の用語用字（第二分冊）』には表記についてのくわしい調査結果がのっている。しかし、これはつぎのような点でおぎなうべきものだとおもわれる。

- 1) 調査が資料の全体でなく、2/3 しか対象にしていないこと。（くわしくは同報告書参照。）
- 2) 調査が漢字の使い方という観点からなされていること。したがって、漢字で書かれた例のある語については、かながきの度数もしめされているが、かなでしかあらわれなかった語については、報告されていない。
- 3) 報告書の副題が「漢字表」であることからわかるように、結果の一覧表がのっているものであって、これについての分析がないこと。一語一語の表記の実態については、それが漢字でかかれている例をもつかぎり、漢字をたよりにして表のなかからさがすことができるが、一般的にどのような語が漢字でかかれやすいか、あるいはどのような条件のもとでかながきがあらわれやすいか、などといった分析がついていない。

表記の安定性という観点からみると、大部分の漢語はあまり問題がない。すなわち、基本的に漢語は漢字でかかれ、それも普通はひととおりにかぎられる。しかし、なかには、かなでかかれらる漢語もあり、その傾向は戦後つよくなっているものとおもわれる。この報告では、おもに、この漢語かながきの問題についてしらべたことをのべる。

なお、本題にはいるまえに、漢語が漢字かな以外でかかれることもあることを注記しておきたい。その第1はアラビア数字でかかれるものであって、よこがきの文章では「1月」「35人」など、ごくふつうのかきかたである。第2は記号化されたローマ字、数字によるもので、実例としては、「km²」「m²」などがあった。第3はごく特殊なばいにおけるローマ字表記で、

- 法政大学院ビルは夜になると、ちょうど人間でいうと頭にあたるところに、鉢巻のように細く長く HOSEI UNIVERCITY GRADUATE SCHOOL という青い色のネオンがつく。(知性 3月 34)

という例があった。(ただし、これは英語にはいった例であって、日本語の表記例というのは適当でないだろう。なお出典の「3月 34」は3月号の34ページを意味する。以下同様。)

漢字がかながきされやすい条件は、いくつかにわけてかんがえることができる。

(1) 文字としての条件

当用漢字表にふくまれていない漢字、または一般的にいってむずかしい漢字はやさしいものよりもかながきされやすいであろう。

(2) 単語としての条件

副詞や動植物名はかながきするという方針があり、実際にもそのような傾向がみられる。

(3) おなじ漢語でも、こどもが、またはこどもむけにかいた文章のなかではかながきの率がたかくなるとおもわれる。それほどでなくとも、いわゆるかたい雑誌とやわらかい雑誌とではちがいがみられるであろう。

以下、これら予想された条件のなかからいくつかをえらんで、それらが実際に

どうはたらいているかをしらべることにする。

1. 表外字はかながきされる傾向がつよい

当然予想されることだが、当用漢字表にはいっている字にくらべて、表外字は、かながきされる傾向がつよい。これは当用漢字音訓表を参照して、意識的にそうしているばあいもあるだろう。また、それを意識しなくとも、表外字のほうがむずかしいので、結果的に自然にそうなる、ということもあるだろう。これを全資料について調査することは困難なので、ここでは、「カ（ガ）」および「リ」ではじまる漢語だけについてしらべることにした。ただし、このなかには「勘十郎」「琉球」のような人名・地名はふくまず、一方、混種語のうち、「顔役」「利食い」のような漢語部分は対象にふくめた。漢語の範囲に人名・地名をふくめないことは、この報告全体を通じての方針であり、混種語の漢語部分をふくめることは、表外字との関係をみるばあいだけの例外的処置である。

これらの漢語について、かながきの率、すなわち

$$\frac{\text{かながきされた漢語要素数}}{\text{のべ漢語要素数}}$$

を計算すると、下の表のようになり、表外字のかながき率がたかい。（ここで「漢語要素」とよんだのは、漢字1字に対応する漢語の成分である。）

	「カ」ではじまる漢語	「リ」ではじまる漢語
表外字	$\frac{63}{377} = 16.7\%$	$\frac{42}{120} = 35.0\%$
表内字	$\frac{415}{18,310} = 2.3\%$	$\frac{48}{4,148} = 1.2\%$

注1) 「(3)ヶ月」「(10)ヶ年」「(4)ヶ条」などの「ヶ」は、「箇」の略字とみれば漢字だが、ここではカタカナとしてあつかった。

注2) 表外字によるものと表内字によるものと、2とおりの漢字表記をもつ語がある。「恰好」～「格好」、「肝腎」～「肝心」などである。これらの語がかながきされたばあい、実は、どちらの字がかなでかかれたのか、わからないわけである。上の表では、便宜上これらをすべて表外字のかながき例にかぞえたが、その数はわずかであり（「カ（ガ）」の部で9例）、大勢に影響ない。

2. むずかしい字は、かながきされやすい

表外字は一般に当用漢字にくらべてむずかしい。したがって、表外字がかながきされやすいことは、「むずかしい字は……」ということの1つの証拠でもある。しかし、さらに、当用漢字の範囲内でも、このような傾向はみとめられるようだ。

資料の全体にわたって、このことを証明するような材料をさがすのは、たいへんやっかいである。ここでは、以下にのべるようなかんたんな方法でこの傾向をしめそとした。

「破壊」という漢語をとってみると、これには「破かい」のように一方だけがかなになった、いわゆるませがきの例がある。「破」も「壊」も当用漢字であるが、「壊」だけがかなになっているのは、なにかこの字を「破」よりもさけさせるような条件がはたらいているからだろう。そのような条件としては、「壊」の方が画数がおおい、「破」には「やぶる」「やぶれる」という訓があるが「壊」にはない（ここで基準にするのは、改訂前の音訓表である）、「破」は「破滅」「大破」など多くの熟語をつくるが「壊」はそれがすくない、などが考えられる。これらは、みな「壊」の字のむずかしさを構成する条件、「壊」の字はむずかしい、ということをより具体的に言いなおしたもの、とみてよいだろう。それで、これらの条件がかながきされる漢字について一般的にあてはまるかどうかをみると、すなわち、当用漢字2字で書かれる漢語で、一方だけがかながきされた例をあつめ、漢字のままのこったものと、かながきされたものとを、上記のような観点から比較した。

資料をなるべく等質のものにするために、名詞系の語にかぎり、形容動詞系・副詞系のものははぶいた。（この分類については、あとでのべることを参照。）また、接頭辞「御」が1字漢語についた「御殿」「御飯」や「（三）箇所」「（五）個条」の類も、ほかとは異質のものとみられるので、ここではあつかわない。

以上のほか、2字漢語のませがきで、ここでとりあげなかったものに、つぎのような例がある。それぞれ、一方の字がかながきされるについて、むずかし

さとは別の条件がはたらいている、とみられるものである。

「ズー体」。『ズー』は「図」の表外音である。

「半ぺん」。辞典によつては「半平」「半片」などの字をあてるが、語源的に問題であり、漢語のかながきされた例としてあげるのは不適当。

「シェイ楽」。○姉がピアノやつとったもんで、自分はシェイ楽をやって……（中央

公論 11月 111）

という例で、発言者の発音を忠実にうつすためにかながきしたもの。

「メイ優」。○「あなたはメイ優です」（娯楽よみうり 8月17日 13 テレビ番組名

「名優」と「迷優」とをかけている。

「他ケン」。○他ケンの空似といふものは あんまりなかったようです（週刊東京

9月1日 32）

「他人の空似」にかけて「他犬」ということばを臨時につくった。

これらをのぞいて、上の条件にあてはまる24語・24対の漢字について、どのようなものがかなになつてゐるかをみていくことにする。はじめに、全部の例と、それらの字の性質とを、表にしてしめす。

	教 育 漢 字 数	画 訓 數	熟 語 數	使 用 度 数	同 音 字 数	激れい							
一たい						「激」	—	16	あり	19			
	「一」	教 1	あり	111	4,578	0			88	4			
	「体」	教 7	なし	61	563	19	「励」	—	7	あり	3	24	9
化せん						ご 生							
	「化」	教 4	あり	29	418	29	「後」	教 9	あり	21	1,076	13	
	「纖」	— 17	なし	3	53	21	「生」	教 5	あり	14	1,449	53	
寒ギク						さん 食							
	「寒」	教 12	あり	16	82	40	「蚕」	教 10	あり	0	0	11	
	「菊」	— 11	なし	1	45	0	「食」	教 9	あり	41	322	8	
かん定						自まん							
	「勘」	— 11	なし	2	21	40	「自」	教 6	あり	60	1,054	17	
	「定」	教 8	あり	6	456	17	「慢」	— 14	なし	6	38	3	
均こう						しょう動							
	「均」	教 7	なし	5	55	13	「衝」	— 15	なし	7	22	53	
	「衡」	— 16	なし	2	11	53	「動」	教 14	あり	45	521	9	
						推せん（推セン）							
						「推」	教 11	あり	12	58	11		
						「薦」	— 16	なし	1	4	22		

しん棒							「壞」	—	16	なし	4	22	20
「心」	教	4	あり	56	715	27	はん布						
「棒」	—	12	なし	4	41	19	「頒」	—	13	なし	1	1	16
精こん							「布」	教	6	あり	22	265	18
「精」	教	14	なし	18	118	20	ふ 任						
「魂」	—	14	あり	4	14	6	「赴」	—	9	なし	1	10	18
弾ガイ							「任」	教	6	あり	22	117	3
「弾」	—	12	なし	14	47	7	兵タイ						
「劾」	—	8	なし	1	2	9	「兵」	教	7	なし	34	173	8
チク生							「隊」	教	12	なし	23	151	19
「畜」	—	10	なし	7	17	2	へん歴						
「生」	教	5	あり	14	1,449	53	「遍」	—	12	なし	4	10	7
ちゅう出							「歴」	教	14	なし	13	68	0
「抽」	—	8	なし	3	17	10	捕りよ						
「出」	教	5	あり	70	2,107	0	「捕」	—	10	あり	8	68	5
バイ介							「虜」	—	13	なし	1	2	2
「媒」	—	12	なし	2	2	6	礼じょう						
「介」	—	4	なし	9	115	20	「礼」	教	5	なし	21	74	9
破かい							「状」	教	7	なし	24	169	17
「破」	教	10	あり	20	102	21							

[教育漢字でないもの]

「一体」「後生」のように、ともに教育漢字のもの、「激励」「彈劾」のように、ともにそうでないものをのぞいて、一方だけが教育漢字である15組についてみると、すべて、教育漢字でない方がかなになっている。

〔画数のおおいもの〕

基準としたのは新字体であり、1956年の段階ではまだ旧字体がかなりのこつていたから、すこし問題だが、旧字体を基準にしても結果はほとんどかわらない。「精魂」はともに14画なので、これをのぞいた23組についてみると、

画数のおおい方が かな 18

画数のすぐない方が かな

であり、統計的に有意差がみとめられる。

[訓のないもの]

改定以前の音訓表を基準にするとき、一方だけが訓をもつ15組のうち、

訓のない方が かな 13

訓のある方が かな 2

である。

[使用範囲のせまいもの]

表で「熟語数」としたのは、この漢字（厳密には、この漢字のあらわす漢語要素）が、何種類の熟語につかわれているかをしめすものである。この数は、『現代雑誌九十種の用語用字 第二分冊 漢字表』にのせられた、全体の3分の2の範囲にあらわれたものであり、したがって、ここで熟語とよぶのは具体的にはβ単位（原則として2字漢語、まれに「破廉恥」のような3字漢語をふくむ）である。

熟語数のすくない方が かな 21

熟語数のおおい方が かな 3

である。熟語数の多少は「後生」のばいをのぞき使用度数（これも全体の3分の2までの数をあげた）の多少と一致するので、「使用範囲のせまい漢字」というのは「使用度数のすくない漢字」といいかえてもよい。

以上にあげた画数や訓のありなしなどは、原理的にはおたがいに無関係であるが、実際には基本的な漢字ではこれらが総合した形であらわれ、それが教育漢字をえらぶ根拠になっている。したがって、現象的には、これらの要因がみなかながきに有利にはたらいているようにみえるが、じつは、その中のいくつかが決定的であって、あの要因は、かながきと直接の因果関係をもたないのかもしれない。これだけのデータからは、そこまでは追求できなかった。しかし、一般的に、むずかしい漢字の方がかなになりやすい、ということはいってもよいだろう。

[同音字数との関係]

これは漢字のむずかしさとは別の問題だが、おなじデータをつかって、同音

の漢字の数とかながきとの関係をしらべてみた。つまり、同音の字がおおければ、これをみわけるために漢字をつかう傾向、かながきをさまたげる傾向がありはしないか、と予想したわけである。

同音の漢字の数をしらべるには、やはり『現代雑誌九十種の用語用字 第二分冊 漢字表』によった。さきの表で「同音字数」としたらんは、この『漢字表』にのっている度数9以上の漢字の数(問題にしている字自体はふくまない)である。ただし、訓よみまたは人名地名にしか使われていないものは、はぶいた。これによれば、

同音字のおおい方が かな 13 (「一体」「均衡」など)

同音字のすくない方が かな 11 (「化織」「自慢」など)

で、特定の傾向はみられない。もし「同音字を区別するために」という要因があったとしても、それは上にあげた「むずかしい字はかなで」という要因にくらべてずっとよわいので、このデータには、あらわれないのであろう。

3. 副詞はかながきされる傾向がつよい

副詞をかながきにするということは、表記の手引きなどによく出ている方針なので、これは当然予想される結果にすぎないが、実際に資料にあたってしらべたものがないようなので、調査結果をしておく。

品詞の分類は、まず国立国語研究所『分類語彙表』によった。これは、語彙調査のとき、見出し語にこの分類番号をふってあったので、これによるのが便利だったからである。『分類語彙表』における分類は、つぎのようになっている。

1. 体の類 (名詞)
2. 用の類 (動詞)
3. 相の類 (形容詞・形容動詞・副詞)
4. その他 (接続詞・感動詞など)

しかし、雑誌九十種の語彙調査では「信する」「凜々しい」などは混種語になっているので、けっきょく漢語の動詞・形容詞はないことになる。「運動する」の類は、「運動」+「する」と2語になって、「運動」は漢語名詞にはいってい

る。「簡単な」のような形容動詞は、語尾の部分を無視して「3. 相の類」に入れてあり、これは混種語ではなく漢語である。4にはいる漢語というのは、おもに「勿論」「多分」など陳述副詞である。なお、この品詞の分類は、実際のつかい方がどうであるかにかかわらず、おなじ単語とみとめた範囲では一定のものとしてある。たとえば、「健康」や「正直」は、實際にはどちらも名詞としての用法も形容動詞としての用法ももっているはずだが、ここではすべて前者は1（名詞）、後者は3（形容動詞）としてある。同様のことは、名詞と副詞のあいだにもみられる。

じつは、この語彙調査の単位である β 単位は、一般にいう単語よりちいさいものもふくんでいる。たとえば、「健康上」「正直者」などの「健康」「正直」が、独立の用法とともに 1β としてかぞえられているのである。したがって、単語の分類である品詞の概念を、ここに適用することは、厳密にいえば、よくないのである。ただ、このままでも、大体の傾向をみると役だつであろう。

なお、助動詞の「よう（だ）」「そう（だ）」は、語彙調査のときには漢語として集計されているが、つぎの表からははぶいた。

「よう（だ）」 2,775 (うち、かながき 2,694)

「そう（だ）」 340 (うち、かながき 337)

さて、漢語の表記を品詞別にみると、つぎの表のようになる。「3. 相の類」は、副詞とそれ以外（つまり形容動詞と考えればよい）とにわけた。これも、實際の用例によるのでなく、もっとも代表的とおもわれる用法によって、語ご

(ことなり)	名 詞	形容動詞	副 詞	そ の 他	計
つねに 漢字がき	12810 (96.0)	807 (87.8)	57 (44.5)	5 (38.5)	13679 (95.0)
つねに ませがき	45 (0.3)	6 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (0.4)
つねに かながき	83 (0.6)	21 (2.3)	8 (6.3)	1 (7.7)	113 (0.8)
それ 以外	406 (3.0)	85 (9.2)	63 (49.2)	7 (53.8)	561 (3.9)
計	13344	919	128	13	14404

(のべ)	名 詞	形容動詞	副 詞	その 他	計
漢字がき	152054 (98.7)	9166 (93.9)	2186 (77.1)	134 (49.1)	163540 (98.0)
まぜがき	392 (0.3)	74 (0.8)	50 (1.8)	1 (0.4)	517 (0.3)
かながき	1606 (1.0)	518 (5.3)	598 (21.1)	138 (50.5)	2860 (1.7)
計	154052	9758	2834	273	166917

() 内は%

とに、どちらかにふるいわけたものである。漢字がきの漢語の数は、今回かぞえたのではなく、すでに報告されている漢語の総数（『国研報告 25』の p. 56 以下を参照）から、かながき、まぜがきの数をひいて算出した。

「ことなり」の方で「それ以外」としたのは、あるときは漢字、あるときはかな、というように、表記が一定していないものである。それ以外の「全部漢字」「まぜがき」「全部かな」というのは、標本にあらわれたかぎりでは表記が一定しているものであるが、じつは、このなかには度数 1（したがって当然表記は一定）というのが、かなりふくまれていることに、注意しなければならない。これらは、表記が安定しているものとはいえず、もっとおおくの標本をとれば、ほかの表記もでてきて「それ以外」の方にまわったかもしれないである。

「それ以外」、すなわち表記が一定していないものが特に副詞におおいことは、のべ語数で副詞のかながきがおおい事実にみあうものであって、名詞が安定した漢字表記をもっているのに対し、副詞はかながふえてきたこと、しかし一方では漢字表記ものこっていて、つねにかな表記、というところまではいっていないこと、をしめすものである。

いちいちの単語についても、より名詞的な用法と、より副詞的な用法とでは差があってもおかしくないが、今回の資料の範囲では、このことをいうのはむずかしい。つぎにあげる単語について、「ゼロ」すなわち助詞・助動詞がつかない形で副詞的につかわれたばあいには、かながきの率がほかのばあいよりもたかくなっているが、これも統計的に有意差のみとめられるほどのものではな

い。

「一切」	ゼロ	～の	～が	～を	～まで	複合
漢字	9	9	3	9	1	5
かな・まぜがき	4	3	0	1	0	0

(「複合」としたのは、「～経」「～合財」などの「一切」である。)

「今度」	ゼロ	～こそ	～は	～も	～の	～が	～に	～から	～ほど
漢字	25	5	57	5	44	2	0	0	1
かな	19	0	38	1	22	1	1	1	0

「大変」	ゼロ	～な	～に	～で	～だ です	述語
漢字	35	27	3	1	14	2
かな・まぜがき	18	6	1	0	4	3

(「述語」としたのは助動詞がつかないままの形で述語になったものである。)

「余計」	ゼロ	～な	～に
漢字	6	8	5
かな	5	4	1

つぎに、用法の面からみて、かなになりやすいとおもわれるものの実例をあげておく。

(1) 副詞的な用法

○科学の対象にならぬものを科学にできると考え、じじつ、一部では科学にしつゝあると（若い女性 7月 130）

○千歳は、じつさい、そのやうな町かも知れない。（文芸 10月 209）

○これらのために球根のウスブルン消毒や用土に石灰を加えることはぜひやりたいもの。（農耕と園芸 5月 77）

○肺に故障があるのでないかと、レントゲン写真をとってもらったが、べつに異常はない。（文芸春秋 11月 301）

(2) 形容動詞

○蜘蛛の音若がぶきみな眼をひからせて、（小説俱楽部 7月 451）

○国中があまい蜜やら粉やらでシロップだのキャラメルだのを作ることにむちゅうになり、（ポピュラーサイエンス 11月 22）

○都會ではいゝが、農村ではちょっとむりだろう。（農業世界 1月付録 107）

ただし、「無理」は名詞としてもかばでかかれることが少なくない。

○一体、それほどムリをして成立させたところで、これから両国の国交関係がどれほど円満に発展していくものか、(東洋経済新報 8月18日 21)

(3) 形式化したもの

実質的意味がうすく、形式名詞化したものも、かながきされることがおおい。

○上の方は減税したぶんよりも、地方税として増したぶんが大きいことになってしまった。(実業の日本 10月15日 42)

○肝機能障害の場合は、たいてい軽いものなので、食餌に気をつける(蛋白をとり、脂肪をへらす)ていどとなります。(保健同人 8月 42)

○そのへんのコンプレックスが、少くもこの友だけには、十分にわかつて貰えることと思う。(俳句 1月 48)

○関係者のおゆるしを請うしたいである。(時の法令 7月23日 26)

○さらに最近は、「不具の身となったためこの世から隠遁したのだ」との、不死説もとび出します。(明星 12月 279)

○今度の増資は設備資金の需要と資本充実法の両面から考えたもようだ。(エコノミスト 7月21日 69)

○老人はそう言うと、ふと立上った。じっとしていられないようすであった。(オール読物 5月 169)

○ある警官がそんなふうにして起こった事故の模様を話してくれた。(リーダーズダイジェスト 4月 41)

とくに、つぎのような時間をあらわすものは、かなになりやすい。

○主演はこんどがはじめて。(平凡 10月 67)

○こんにちの新興宗教のうちでは、大本教系と日蓮宗系が圧倒的に多いのですが、(人生手帖 10月 77)

○大いに意気投合しこんごの交友を約束して、たのしいおもいで帰ってきた。(保健同人 6月 122)

○そのさいちゅうに、米軍のB17と覚しい爆音が、(オール読物 6月 154)

○内皮の汗ジミは揮発油だけでは取れないのでそのつどぬれた布でおいておきます。(主婦と生活 7月 443)

○このさい(ハ)図のように一センチ五ミリ控えておきます。(装苑 3月 208)

○大きく口を開いたとたんに、アゴがはずれたという隨筆を(知性 4月 113)

○すでに酒を飲みだしたじぶんで、小遣いが足りなくなるとせびりに来た。(小説の泉 1月 104)

4. やさしい語はかながきされやすい

「粗末」「簡単」のようなやさしい単語の方が、似た意味でもこれよりむづかしい「貧弱」「単純」などよりは、かなでかかる傾向がつよいとおもわれる。しかし、これを客観的なデータでしめすことはむづかしい。第1に、やさしい（はなしことば的）という性質は、主観的判断によるところが大きく、だれもが一致した結論に達するとはかぎらない。第2に、比較のためには、やさしさ以外の条件（品詞・意味・表外字の有無など）ができるだけ近い単語の対で、それぞれの使用度数がかなりたかいものを、さがさなければならぬが、このような対は、そうおおくない。

ここでは、やさしさの基準に阪本一郎『教育基本語彙』、類義性の基準に国立国語研究所『分類語彙表』をつかうことにして、つぎのような条件にあう漢語をえらびだした。

- (1) 『教育基本語彙』にのっていること。
- (2) 『分類語彙表』でおなじ小グループ（おなじ分類番号の項目のなかで、改行によって区別される段落）に属すること。
- (3) 文法的・語構成的な性質が、ほぼおなじであること。（この条件によって、たとえば「途端——即座」「無理——合理」「大体——約」などの各組が、比較の対象から、はずされる。）
- (4) 表外字・表外音訓をふくまないこと。（「肝心・肝腎」のように、両方のかきかたがあるものは、表外字・表外音訓をふくむものとみて、除外した。）
- (5) 雑誌 90 種の調査で度数 7 以上であること。（これらは『分類語彙表』で星印がついている。）

このような基準によってえらびだされた漢語の表記をくらべると、たしかに「やさしい語はかながきされやすい」といってよさそうな対がいくつもある。最初にあげた例についていえば、

粗末 3/12——貧弱 0/8

簡単 8/67——単純 0/20

である。(3/12は、総使用度数のうち、かながき・ませがきのものが3であることをしめす。)しかし、じつは、この程度の差では統計的にみて意味があるとはいえない。検定の結果有意差がみとめられるものは、つぎの各組である。

(分類番号)

1. 130 ₀	様子 (A) 7/ 58	—状況 (C) 0/ 33
1. 164 ₃	今後 (B) 6/ 89	—将来 (B) 0/ 74
1. 167 ₁	今度 (A) 83/222	—今回 (C) 0/ 30
1. 196 ₀	度 (A) 9/394	—回 (A) 0/403
	遍 (A) 5/ 7	—回 (A) 0/403
	遍 (A) 5/ 7	—重 (A) 0/ 15
1. 202	君 (A) 9/173	—氏 (B) 0/408
1. 204	野郎 (B) 3/ 22	—男性 (B) 0/ 83
1. 300 ₁	氣味 (B) 2/ 33	—氣 (A) 0/351
1. 313 ₆	解説 (B) 3/ 37	—説明 (A) 0/ 82
3. 131	一応 (B) 4/ 75	—一般 (B) 0/127
	普通 (A) 8/116	—一般 (B) 0/127
3. 132	変 (A) 12/ 37	—妙 (A) 0/ 35
	変 (A) 12/ 37	—奇妙 (B) 0/ 21
	変 (A) 12/ 37	—特異 (C) 0/ 11
3. 160	普段 (A) 11/ 18	—通常 (B) 0/ 13
3. 161	早速 (A) 20/ 38	—早々 (B) 1/ 17
3. 195	一杯 (A) 46/ 76	—満員 (A) 0/ 10
3. 199 ₂	大抵 (A) 26/ 38	—大体 (A) 25/100
3. 199 ₃	散々 (A) 10/ 14	—至極 (B) 1/ 10
	散々 (A) 10/ 14	—極端 (B) 0/ 17
	大層 (A) 5/ 8	—至極 (B) 1/ 10
	大層 (A) 5/ 8	—極端 (B) 0/ 17
	大変 (A) 32/114	—極端 (B) 0/ 17
3. 37	大切 (A) 5/ 74	—必要 (B) 0/268

上の表でカッコのなかに入れた記号は『教育基本語彙』による段階づけであり,

A — 小学校低学年

B — 小学校高学年

C — 中学校

という関係になっている。これをみると、左がわ、すなわち、かながきの多い方にAがあるのがふつうである。やさしい方にかながきの多い対は、

A — B 11

A — C 3

合計14組あり、これに対して、むずかしい方にかながきの多いのは、

B — A 2

の2組（気味——氣、解説——説明）にすぎない。（「解説」のかながき3例は、みな読切俱楽部の映画のページに見出しとしてつかわれたものである。）

なお、ここで「やさしい語」といったのは、べつの面からみれば、「文体的に無色にちかい語」「はなしことばでよく使われる語」などということもできる。これらは概念的にはそれぞれちがうが、「様子」と「状況」などの対をくらべるかぎり、具体的な判定では、ほとんど一致するだろう。しかし、「やしさ」の認定に『教育基本語彙』が利用できたのに対して、文体の度合いをくわしくしめた辞書も、はなしことばの度数をかぞえた大規模な語彙調査もないのに、これらの基準を正面にだすことはさけ、やしさという観点からとらえたのである。

5. まぜがきをさけるために、かなにすることがある

漢語の一部分だけをかなにする、いわゆる「まぜがき」に対しては、なるべくさけたい、という気持ちがはたらくことがあるようである。さける方法としては、全体を漢字のままのこしておく、という方がふつうかもしれないが、逆に、全体をかなにしてしまう、という傾向もある。

たとえば、「軽蔑」ということばで、「蔑」は表外字だが「軽」は表内字である。したがって、「蔑」だけがかなになって、「軽べつ」というまぜがきになることが予想される。ところが、実際の表記形式は、「軽蔑」4、「けいべつ」2で、まぜがきはなかった。「軽」という字は、表内字とむすびついているかぎり、つねに漢字であらわれる。

「軽快」15 「軽挙」1 「軽減」10 「軽視」3

「軽卒」3 「軽輩」1 「軽薄」1 「軽微」1
「軽侮」2 「軽妙」2 「軽油」1 「軽量」4

のように。つまり、この字自体には、かながきの傾向はない。それが「けいべつ」という2例でかなになったのは、「蔑」がかなになったのに引きずられたものとみられる。

このように、表内字+表外字 というくみあわせで、全体がかながきされた例としては、ほかにつぎのようなものがある。(下線をひいたものが表外字。)

斡旋 位牌 鬱憤 蘊蓄 界隈 欺瞞 稽古 行李 乞食 骨董 困憊
焜炉 賽錢 蟹井 烧酎 銷沈 醬油 脍臚 真鑑 脊髓 石鹼 接吻
喘息 洗濯 頽廐 蛇足 探偵 蛋白 馳走 頂戴 天秤 泯濫 硝素
風靡 裕易 別嬪 縮帶 褒美 翻弄 麻痺 無垢 勿体 憶着 誘拐
燐酸

このほか、「林檎」のような動植物名、「一旦」のような副詞で全体がかなのものがあるが、これらは単語の性質からみて、かながきされやすいものである。しかし、上にあげたグループは、単語としてはかながきの傾向をもたず、これが表内字までふくめてかなでかかれたのは、表外字だけをかなにすることに抵抗があったため、とみるのが自然であろう。

もっとも、ここに直接的な因果関係をみるとて、それだけで上の例をすべて説明してしまうのは、すこし単純化しすぎるかもしれない。これらの漢字になっている意味のうすれ方が、かながきへの傾向をさそいだした可能性もあるからである。

表外字のおおくは訓をもたず、その使われる漢語の種類もかぎられており、結果として、その意味はアイマイである。「石鹼」の「鹼」、「蛋白」の「蛋」、「別嬪」の「嬪」などはもっともはなはだしい例である。このため、これとむすびついた相手方の表内字も、その意味がどうでもよいものになる。「蛋白」の「蛋」に<たまご>の意味がいきていれば、「白」に<しろい>という意味をみるとめることは、むずかしくない。そのばあい、「蛋」「白」という構成要素の意味は「蛋白」全体の意味とむすびつき、この語の内部形式または動機づけ(motivation) の役わりをはたす。しかし、意味不明の「蛋」とむすびついた

「白」は、かりに「しろい」という意味だとしても、「蛋白」全体の意味をしる手がかりにはならない。すなわち、ここでは語の内部形式はうしなわれ、「蛋白」は不透明な構成をもつものとなり、漢字は意味をなう単位ではなくなる。これは当然かながきをさそいやすい条件である。

まぜがきをさける傾向は、つぎのような点からもいえる。

接頭辞の「御」は「ご」とかなでかかれることもある。したがって、これが漢語についたばい、その漢語のかながきの可能性も考えに入れれば、表記の種類は4とおりになるはずである。そして、実際、たとえばこれが「機嫌」についた例では、

- (A) 「御機嫌」
- (B) 「ご機嫌」
- (C) 「御きげん」
- (D) 「ごきげん」

という4とおりの表記がすべてあらわれる。ところが、(B)(C)のまぜかきは(A)(D)の漢字・かなで統一した表記にくらべてすぐない。(とくに、「御」だけを漢字がきにした(C)型のものは、上記の「御きげん」という1例があるだけである。)

「御」のつく漢語としては「機嫌」「意見」のような2字漢語、「門」「飯」のような1字漢語があって、多少性格がちがうが、いま、これらを一括して集計すると、つぎのような結果がえられる。(1字漢語と2字漢語とをそれぞれ別に集計しても、両方ともおなじ傾向をしめし、結論自体にかわりはない。なおこの語彙調査の際、2字以上の漢語についた「御」はすべて独立の1単位とし

てあつかわれており、1字漢語についてのものも、「御門」「御用」のようにこの1字漢語に独立用法があるばあいは切られていく。したがって、あとにのせた表記一覧表で、「ご飯」「ご殿」

漢語	「御」	「ご」	計
漢字	(A) 274	(B) 98	372
かな	(C) 1	(D) 59	60
まぜがき	0	1	1
計	275	158	433

などはこの形であらわれるが、「ご機嫌」「ご門」などは単独の「御(ご)」として集計されている。)

もし「御」とそれにつく漢語と、それぞれのかながきが無関係であるならば、期待されるまぜがきの度数は、

$$(B) 136 + (C) 38 = 174$$

であるはずだが、実際にあらわれたのは、上の表のように

$$(B) 98 + (C) 1 = 99$$

で、はるかにすくない。このことは、まぜがきをさけて、ある単語は全体として漢字またはかなでかこうとする傾向があることをしめすものである。

以上にみるように、「御」はそのつく漢語よりもかながきの率がたかい。このほかにも、接辞であり形式的であるためにかなでかかれた、とみられる例が、とくに接尾辞にはいくつかある。

○そうすると、工業都市尼ヶ崎附近、神戸、西宮あたりいったい、相当のファンが吸収できるわけだ。(ベースボールマガジン 1月 91)

○超音速の飛行機どうしの戦いでも(週刊読売 1月 1日 13)

○いくどこの世の中に生まれてきたことを歎いたことでしょう。(知性 4月 290)

○何べんも甚右衛門は、村の者たちに念を押した。(娯楽よみうり 8月24日 47)

○一ぱつアッパー・カットをいただけばお許しとなるのだが、(キング 10月 164)

○ともかくトリスが生で一パイ四十円、ハイボール五十円、というのを二、三パイで切り上げるのが普通で、(週刊朝日 7月 1日 21)

○それは新入社の佐藤ケンで、終始、黙々と仕事に励んでいた次第、(近代映画 7月 181)

○世界じゅうの人達から尊敬され、八十歳の誕生日を祝われている最中にトルストイが(群像 10月 196)

しかし、ここから、接辞は独立の単語よりもかながきされる傾向がつよい、という一般的な結論をだすのは、はやすぎる。おなじ漢語の接頭辞でも「大」「新」「反」などかながきへの傾向をしめさないものの方がむしろふつうであって、「御」は例外である。接尾辞の「的」など、1,400をこえる実例のうち、かながきは1つもなく、逆に前にきた漢語がかながき・まぜがきされているものが、以下にあげるよう5例あった。

○それは、いわゆる“太陽族”式のタイハイ的なものであってはならないが、（サンデー毎日 8月19日 13）

○倦怠がこうじて破かい的様相を呈したもの（週刊サンケイ 2月12日 6）

○青年男女が楽しく語り合う中でこそ眞の友情は生れるのだ、式なカンネン的な平和論や友情論だけで（人生手帖 8月 102）

○勤労には幾分しんしゃく的の意味で一律に引くのだ、（ジュリスト 10月1日 43）

○ここではふんいき的な効果もあわせて狙われて（婦人朝日 4月 101）

また、「日本風」「バッハ風」などの接尾辞的な「風」と、「こんな風に」のような形式名詞的な「風」とは、語彙調査のとき同語として合併されているが、うちわけをみると、形式名詞的な用法のかながき例の方がずっとおおい。つまり、このばあいにも、接尾辞化がかながきを特にうながしたとはみえない。

接尾辞	形式名詞
漢字	46
かな	2
	31
	40

なお、ませがきの条件としての1語とは、どの程度のながさまでふくむか問題だが、つぎの例なども「ビックリ」にひきずられた、ませがき回避の一種ともみられる。

○なかから可愛い男の児が生まれ、子供をほしがっていたお爺さんとお婆さんをビックリギョウテンさせたのでした。（週刊東京 7月21日 50）

6. 大衆的な雑誌では、かながきされやすい

雑誌90種の調査では、雑誌の種類をつぎの5層（部門）にわけて結果を集計した。

1層〔評論・芸文〕12誌

「世界」「新潮」「俳句」など。

2層〔庶民〕14誌

「文芸春秋」「家の光」「週刊朝日」など。

3層〔実用・通俗科学〕 15誌

「自然」「農耕と園芸」「エコノミスト」など。

4層〔生活・婦人〕 14誌

「暮らしの手帖」「主婦の友」など。

5層〔娯楽・趣味〕 35誌

「オール読物」「明星」「アサヒカメラ」「ベースボールマガジン」など。

これらの雑誌の種類によって、かながきの傾向がちがうかどうかを、しらべようとした。ところで、この調査のさい、その層によるうちわけ、すなわちかながき漢語が各層に何語あるか、という結果はだしてなかった。それで、各層ごとの漢語かながき率を出して、これを比較する、というわけにはいかない。またもしこれをしたとしても、たとえばある層の漢語のべ語数をm、そのうち、かながきのものをnとするとき、A層とB層とで、

$$n_A/m_A > n_B/m_B$$

すなわちA層のかながき率がたかい、ということがわかったとしても、ここからは、つぎの2種類の推定が可能である。

(1) A層には、かながきされやすい漢語（副詞や表外字によるものなど）がB層よりもおおい。

(2) おなじ漢語でも、B層でつかわれるときより、A層でつかわれたときのほうが、かなになりやすい。

われわれにとって、より興味があるのは(2)の形での結論である。だから、全体としての漢語かながき率を比較しただけでは、のぞましい結果がえられない。そこで、ここでは(1)の事情に関係なく(2)についての結果がえられるように、つぎのような方法をとった。

たとえば、「椅子」ということばの層別・表記別の集計結果は、つぎのとおりである。

表記\層	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計
椅子	8	—	—	5	12	25
いす	—	2	—	2	—	4
イス	—	1	2	1	3	7
(かながき率)	0.00	1.00	1.00	0.38	0.20	

いま、a層のかながき率を P_a であらわすと、「椅子」については、 $P_1=0.00$,

$P_5=0.20 \therefore P_1 < P_5$ 同様の方法で 1 層・5 層に共通してあらわされる漢語についてしらべると、

$P_1 > P_5$ のもの 34 語

$P_1 < P_5$ のもの 98 語

であり、おなじ語についても 5 層のほうがかなになりやすい、と推定できる。

これとおなじ方法で各層を比較した結果が、つぎの表である。(まぜがきは、かなとみなした。)

	5 層	4 層	3 層	2 層
1 層	$P_1 > P_5$ 34	$P_1 > P_4$ 29	$P_1 > P_3$ 27	$P_1 > P_2$ 31
	$P_1 < P_5$ 98	$P_1 < P_4$ 63	$P_1 < P_3$ 36	$P_1 < P_2$ 69
2 層	$P_2 > P_5$ 98	$P_2 > P_4$ 74	$P_2 > P_3$ 55	
	$P_2 < P_5$ 113	$P_2 < P_4$ 62	$P_2 < P_3$ 46	
3 層	$P_3 > P_5$ 43	$P_3 > P_4$ 50		
	$P_3 < P_5$ 74	$P_3 < P_4$ 45		
4 層	$P_4 > P_5$ 80			
	$P_4 < P_5$ 87			

χ^2 検定によれば、つぎの各層のあいだに 5 % の危険率で有意差がみられる。

1 層と 2 層

1 層と 4 层

1 層と 5 层

3 層と 5 层

したがって、もっとも漢字をこのむのは 1 層(評論・芸文)、ついで 3 層(実用・通俗科学)であり、もっともかなをこのむのは 5 層(娯楽・趣味)ということになる。

娯楽・趣味関係の雑誌で、かながおおいのは、読者層が大衆的なので、わかりやすくするためであろう。しかし、もう一つの理由として、文字づかいにむとんじゃくだ、ということも、あげられそうである。

○昼間の海はさんごしょうに開まれている島丈に絶品です。……(中略) ……そと

頬をなせる甘い様なんとも云えない風を身体一杯に受け乍らこの素晴らしい喜びも誰かに伝えずにはおれないちょうどにかられました。(近代映画 9月 153)
この文の筆者は、「さんごしょう」「しょうどう」という漢語をかなにしている一方、「丈に」「乍ら」などの助詞を漢字でかいている。だから、ことさら漢字をへらそうといった意図でかいたものでないことは、あきらかである。作家や記者のような専門的な書き手なら、このような文字づかいはしないであろう。

7. その他のかながき

以上、かながきになりやすいものとして、いくつかの目だつぱあいをあげてきた。しかし、このほかにも、かながきの理由が考えられる用例がいくつかある。上にあげてきた観点とダブる点もあるが、以下にこれらを列挙することにする。あとにあげる漢語かながきの一覧表の数字は、これら雑多な理由によるものがまじっているのである。

(1) 動植物名・術語

○ダイコンは和歌山もの一色となるが、この地方はバクテラスで不作見込みで、三本東(約一貫)三二一五円見当を予想している。ハクサイは静岡の庄内ものが中心であるが、貫当四五二二円見当を予想している。ゴボウは年末の出荷量によるが、おもったより少いから、一月相場は少し強い見込み。(農耕と園芸 1月 155)

○球根類 サフラン、スイセン類、スノードロップ、スノーフレーク、チュウリップ、ヒヤシンス

宿根草 ユキワリソウ、フクジュソウ、シャクヤク、キク、アヤメ、シュンラン、ヤブラン(農耕と園芸 9月付録 31)

これらの例の「ダイコン」「ハクサイ」などは、動植物名は、かな(かたかな)がきにする、という方針によって、かながきされたものとみられる。

ただし、動植物名には、「キリン」「ゴボウ」など表外字のものがおおく、かながきの理由としても、動植物名だということが、どのくらいきいているかは問題である。

つぎのような例からは、動植物にかぎらず、一般に術語をカタカナがきしようとする傾向がうかがわれる。

○タネの改良は染色体の配合によってきます。花やヤサイの場合だって、メバナの染色体が半分に、オバナの染色体が半分づつ配合されるわけだ。(実業の日本 6月

15日 93)

○稲の生育と、チッソの効かせ方の原則論としては、(農業世界 9月 127)

(2) 固有名詞

会社名などでカタカナがきのものは、当然引用文中でもそうなる。

○サンケイ画廊 (美術手帖 5月 138)

○センバツの不振を夏の大会で取戻さんとする浜松商のバッテリー (ベースボールマガジン 7月 235)

○初の総天然色トーホー・スコープを背景に使った筏流しや (若い女性 9月 210)

(3) 外来語めかしたもの

上の「トーホー・スコープ」もそうだが、つぎの例も「ミス」にあわせて外来語めかした表記法であろう。

○ほかにミス・セイドーの、きれいな乙女たちにも、また講師をつとめなければならない。(傑作俱楽部 7月 231)

(4) 子どものことば

子どもの作文のなかでは、おとなが漢字でかくような単語も、かなになることがおおい。

○お父さん、お母さん、びょういんのせんせいがた、学校の先生や、おともだち、心配してくださったみんな、どうもありがとう。(婦人俱楽部 10月 475)

○やすむべ 父ちゃんもあんちゃんもへんじもしない そうだ米をつくることだけがおら家の仕事なのだ (週刊読売 1月1日 70)

また、子どもむけの文章のなかでも、かながきがふえる。

○こうして、毎日かいほうしてもらっているうちに、年よりのおさるはすっかり神主さんになついて、(婦人俱楽部 9月 67)

○お医者さまが、かばんの中からとり出したのは、注射のどうぐのはいっている、ぴかぴかしたはこではなくて、(婦人朝日 4月 122)

(5) 全文かながきのもの

子どもの作文も、極端なもののは全文かなであるが、おとの文章でもわざとそうするものがある。つぎにあげる例は、当時流行していたボナンザグラムについて、読者から週刊誌の編集部にあてた手紙である。

○これを、きかいに「せいけんかんじ」「とうようかんじ」「きょういくかんじ」「いちらんひょう」を「けいさい」してください。ボナンザグラムをとうして「にほんじ」「にほんご」のべんきょうになり「ゆうえき」なことだとおもいます。かなづかいがわかりませんので、このはがきのぶんしょうも、まちがっていることで

しょう。おゆるしください。へんしゅきょくちょうさま。(週刊朝日 7月29日 84)

(6) 電報

これは全文カタカナがきの文章である。

○「トネオキトケ、スグコイ、サガミコハンホテルヨウコ」(スタイル 6月 196)

○『チケイカワルシ スモウオワリシダイスグカエレ キエ』(相撲 10月 137)

(7) 意味をばかすためのかながき

つぎの例は、「利権をあさる」にかけてつくった貝の名まえであるが、動物名なのでカタカナがきにした、ということのほかに、漢字で「利権」とかくと意味が表面に出すぎるので、それをさけた、という理由もありそうである。

○主として政海、官海、実業海等の泥中にひそむ二枚貝で、嗅覚が異常に発達し、好餌を求めては、所々方々に現われる。リケンアサリは、アサリ中、最も代表的なもので、(オール読物 4月 240)

ある意味では、「兄弟」のかながきも、この類にかぞえることができるかもしない。かながきの3例のうち、1例は姉と弟、1例は兄と妹、他の1例は○親きょうだいに死なれ、親類の所在もわからないような孤児の出ることがずいぶんある。(小説と読物 3月 172)

のように性別がどうでもいい例であり、いずれにせよ、「兄弟」という表記のしめす意味とは、くいちがっている。「兄妹」とかいて「きょうだい」とよませるような例もかなりあるが、こうするとよみかたとむじゅんする。漢字でなく以上、どうかいても意味か音かがじゃまになるのである。つぎの「かんらく」は話しことば的であるためのかながきとみて説明がつくが、本来の意味と離れていることも、多少はたらいているかもしれない。

○六年二十一場所の幕内生活から別れをつげて十枚目にかんらくなした。(相撲 12月 137)

(8) 発音をあらわすためのかながき

さきに、発音をはっきりあらわすために「シェイ楽」とかなでかいた例をあげたが、この類には、まだつぎのようなものがある。

○センセ 先生とピーチ・スタイルの太陽娘に大もて(週刊東京 9月1日 33)

○『はッ……ガ、ガイトウロクオン！ はッ』(小説俱楽部 8月 190)

つぎの例は、形式的な接尾辞である点だけからも説明がつくが、「山中」と

かくと「さんちゅう」とよまれるおそれがあるので、それをふせぐために、かなでかいたともみられる。同音語の意味の区別をしめすために漢字をつかう、ということの逆の現象である。

○そして山じゅうに響きわたるかと思われるような彼等の声のきらめきは、(旅 5月 31)

特殊な例として、漢語のよみかたをしめすためのかながきがある。

○<匿名> とくめい。自分の姓名をかくすこと。本名と違った名を用いること。
(知性 7月 137)

特にふつうの発音とちがっていることをしめす、というのでなくとも、話したことばをうつした文のなかでは、音声的性格を強調するために、かなにすることがある。

○ヨーイドン!! 向う岸までキョウソウよ (明星 10月 51)

○ナムミョウホーレンゲキョウ, 家内安泰, 家業繁昌, ドンツク, ドンドン…… (主婦の友 3月 128)

○よしてよ あんたみたいな太陽族じゃないわ

ふうんタイヨウゾクね (小説サロン 8月 60)

最後の例は漫画のものだが、漫画のなかの会話は、画数のおおい漢字が画面にはいりにくせいもあってか、特にかなが目だつようである。

(9) かなの表現的なつかいかた

カタカナは俗語的なものの表記にこのんでつかわれる。

○作曲、演奏、音楽学、どの面をみても、オンチどころではなくなりつつあります。
(音楽の友 1月 40)

○彼女が、困窮のはてにサギやカタリを働くような種類の女ではないような気がしてくるのだ。(傑作俱楽部 4月 68)

つぎの例の「鑑識」は、ことば自体としてはかなりかたい文章語だが、ここでは「鑑識課」の略語として、いわば専門的な分野における俗語として、つかわれたものである。

○カンシキ殺すにわけはない
コロシの三つもあればよい (宝石 5月 76)

このようなところから、ふつう漢字でかかる単語をカタカナでかくと、それが俗語的に感じられ、おどけたような表現効果が生じる。

○部長はどうしても友吉の口から、事故のありさまを再現させるコンタンらしい。

(文芸 5月 202)

○そして吉田内閣当時の隠退蔵物資や終戦処理費にかわって新しいフハイの源泉となつたのである。(知性 11月 245)

○月形はキンノーの志士月形半平太から、竜之介は『大菩薩峠』の机竜之介からのモジリで、このくらい強そうな名前はちょいとない、という程の意味である。(キング 2月付録 71)

つぎの例も、観念的な傾向に対する皮肉・茶化しともとれる。

○平和は守らなければならない式な事や、青年男女が楽しく語り合う中でこそ眞の友情は生れるのだ、式なカンネン的な平和論や友情論だけですませてしまう人が(人生手帖 8月 102)

ひらがなには、このような表現効果はすぐない。しかし、つぎの例などは、漢字のかたさをかけて、しみじみとした気分をだそうとした、という感じがないでもない。

○少し汗ばんだ身体を、日のひかりで時々ひかる湯波の間に横たえた時、始めて、ああおんせんといいうのもいいものだと思ったのです。(旅 11月 113)

8. 新聞との比較

国語研究所では電子計算機をつかって1966(昭41)年1年間の朝日・毎日・読売3紙の語彙調査をおこない、その結果を報告してきた。それで、漢語の表記について、雑誌と新聞とをくらべることができる。

しかし、この両者は単純には比較できない。第1に、対象の面で、雑誌と新聞といいうちがいだけでなく、1956年と1966年という10年間の差があるので、表記法の差がジャンルのちがいによるのか10年間にかわったことをしめすのか、わからない。第2に、方法の面でも2つの調査はかなりちがう。新聞の調査では、電子計算機をつかった関係上、おなじ表記のものは別語であっても合併されているし(「心」の「しん」と「こころ」、「いぜん」の「以前」と「依然」),別表記のものはおなじ語でもわかっている(「心」と「しん」、「以前」と「いぜん」)。また、雑誌の調査では「普通」「乗用」「車」のようにみじかい単位にきられ、この「普通」や「乗用」は、それだけ独立してつかわれたものといっしょにされているが、新聞の調査では「普通乗用車」全体で1単位とされ、単独

の「普通」などとは区別して集計されている。このようなわけで、げんみつにいえば、結果の比較はむずかしいのである。

ここでは、『国立国語研究所報告48 電子計算機による新聞の語彙調査(IV)』にのっている「簡易五十音順長単位表」によって新聞における漢語かながきのようすをしらべた。ただし、つぎのようなものにかぎる。

- (1) 雑誌新聞とも度数10以上であること。
- (2) 雑誌でかながきの例が2つ以上あること。
- (3) 「語」「氏」のように主として接辞的につかわれるものでないこと。
- (4) 「心」「いぜん」のように2語以上があわさっている可能性のたかいものでないこと。

なお、新聞の方は単独用法にかぎり、「普通乗用車」の「普通」のような結合用法は無視する。ただし、形容動詞については、「簡単だ～簡単で～簡単な～簡単に」などと別項目になっている各活用形の度数を合併する。

つぎの一覧表で「かな」とあるものには、まぜがきの度数をふくむ。○印は5%の危険率有意差のみとめられる項目である。これらのうち、「解説」と「非常」だけは雑誌の、ほかは新聞のかながきが多い。

	雑誌		新聞		○解	説	34	3	363	—
	漢字	かな	漢字	かな	○格	好	23	3	12	9
○拶 挨	37	5	1	66	○我	慢	16	5	4	8
○椅 子	25	11	10	20	○簡	单	59	8	160	13
一 応	71	4	89	7	○綺	麗	6	53	3	76
一 段	15	2	59	1	○結	局	95	3	116	5
○一 番	151	37	167	85	○結	構	26	4	55	8
一 面	22	2	35	—	○喧	嘩	32	8	3	17
○一 向	21	4	7	10	○懸	命	23	3	15	4
○一 緒	105	40	36	110	○御	飯	20	12	—	17
一 斉	7	4	16	23	○御	覽	5	33	2	64
○一 層	38	19	41	59	○今	後	83	6	301	84
一 体	47	31	34	27	○今	度	139	83	91	310
○一 旦	8	12	—	41	○今	日	97	3	205	4
○一 杯	30	46	30	145	○最	近	165	3	397	14
意 味	202	4	206	—	○早	速	18	20	14	50

散々	4	10	3	11	特時	68	3	111	5
刺激	24	2	15	3	計然	26	2	38	—
○次第	87	7	127	33	○乃至	36	2	60	1
自慢	22	2	16	—	○人參	7	26	—	101
洒落	4	13	—	14	○馬鹿	11	5	—	30
○醤油	29	7	7	29	○濁渦	28	36	1	25
隨分	12	51	1	22	○非常	8	2	1	9
○精々	4	8	—	15	○非膚	206	8	122	—
○贅沢	6	5	1	14	皮	17	9	7	16
○折角	14	29	4	36	○瓶	20	2	—	14
絶対	72	3	69	11	不思議	65	16	64	8
○是非	23	23	20	99	○普段	7	11	—	27
先生	259	2	161	1	○普通	108	8	139	28
全然	56	9	28	6	○葡萄	12	26	—	18
○洗濯	35	12	6	14	○布団	21	10	2	13
掃除	14	2	20	2	○霧潤氣	36	5	10	31
相當	121	5	91	—	別	159	4	193	1
○大根	22	7	13	56	○僕	344	164	38	98
大切	69	5	74	8	本當	93	95	61	40
大体	75	25	23	16	○漫画	13	4	20	143
○大抵	12	26	—	17	○蜜柑	9	10	1	25
○大変	82	32	75	76	○無理	75	11	53	35
○沢山	34	47	9	85	無論	12	25	1	23
多分	29	8	17	5	○面倒	19	3	19	13
單に	50	3	147	9	○勿論	38	112	4	188
程度	137	5	321	12	○模様	86	2	75	16
丁寧	11	11	7	7	野菜	20	2	75	2
到底	6	7	2	10	様子	51	7	53	10
○豆腐	16	2	5	7	○立派	64	7	42	30
○特に	120	65	284	406	林檎	3	15	1	36

なお、最後に、2とおりの漢字表記をもつ漢語について比較した結果をあげておく。

雑誌		新聞							
{衣裳	15	83	{群衆	4	2	{実情	12	63	
衣装	5	14	群衆	11	12	実状	4	1	
{機械	77	188	{交代替替	7	26	{車輛	12	14	
器械	3	2	交代替替	3	5	車輛	5	8	
{基準	26	64	{作成製	8	24				
規準	1	3	作成製	2	1				

第1表 かな表記のある語の表 (× 表外字, △ 表外音)

愛敬	6	椅子	36	いちめん	2
愛嬌	3	椅子	25	△銀杏	2
愛敬	2	イス	7	△銀杏	1
愛きょう	1	いす	4	イチヨウ	1
挨拶	42	以前	48	一覽	5
挨拶	37	以前	47	一覽	4
アイツツ	1	いぜん	1	いちらん	1
あいさつ	4	依然	27	一向	25
曖昧	9	依然	23	一向	21
曖昧	5	いぜん	4	いっこう	4
アイマイ	1	一々	17	一切	44
あいまい	3	一々	7	一切	36
醒観	1	いちいち	10	一さい	2
あくせく	1	一応	75	いっさい	6
斡旋	4	一応	71	一散	4
斡旋	2	一おう	1	一散	3
あっせん	2	いちおう	3	いっさん	1
痘痕	1	一概	4	一瞬	24
アバタ	1	一概	3	一瞬	23
阿呆	10	いちがい	1	一しゅん	1
阿呆	5	一段	17	一緒	145
阿房	2	一段	15	一緒	104
あほオ	1	一だん	2	一所	1
あほう	1	一番	188	一しょ	15
あほお	1	一番	151	いっしょ	25
案外	30	一ばん	9	一生	19
案外	29	いちばん	28	一生	18
あんがい	1	一部	89	いっしょう	1
按排	6	一部	88	一齊	11
按排	1	いちぶ	1	一齊	6
案配	1	一瞥	2	一勢	1
アンパイ	1	一瞥	1	いっせい	4
あんぱい	3	一べつ	1	一層	8
遺憾	9	一抹	2	一そ	1
遺憾	8	一まつ	2	いっそ	7
いかん	1	一目散	1	一層	57
育雛	5	いちもくさん	1	一層	38
育雛	3	一面	24	一そう	5
育スウ	2	一面	22	いっそう	14

一体	78		因縁	7	蜒々	1
一体	47		いんねん	1	えんえん	1
一たい	3	洒滅	2	臙脂	5	
いったい	27	隱滅	1	臙脂		1
いってえ	1	インメツ	1	えんじ		4
一帯	8	外郎	1	演説	22	
一帯	7	ういろう	1	演説		21
いったい	1	迂闊	4	エンゼツ		1
一旦	20	迂闊		遠慮	22	
一旦	8	うかつ	2	遠慮		21
一たん	7	胡散	2	えんりょ		1
いったん	5	うさん	2	謳歌	3	
一杯	76	鬱積	2	謳歌		1
一杯	30	鬱積	1	おう歌		2
一パイ	1	うつ積	1	旺盛	15	
一ぱい	17	鬱符	2	旺盛		14
一っぽい	1	鬱苔		おう盛		1
いっぽい	26	うつそう	1	臆測	4	
えっぽい	1	鬱積	2	臆測		1
一遍	3	鬱積	1	憶測(ママ)		2
一遍	1	ウップン	1	おくそく		1
一ペん	1	鬱勁	1	乙	5	
いっぺん	1	ウツボツ	1	乙		4
位牌	2	餽噃	9	オツ		1
位牌	1	ウドン	1	億劫	3	
イハイ	1	うどん	8	億劫		1
意味	206	有耶無耶	2	億劫		1
意味	202	うやむや	2	おっくう		1
イミ	3	孟蘭盆	1	温泉	51	
いみ	1	うら盆	1	温泉		50
以来	87	蘊蓄	3	おんせん		1
以来	86	蘊蓄	2	音痴	2	
いらい	1	ウンチク	1	音痴		1
懲懲	3	云々	12	オンチ		1
懲懲	1	云々		蛾	3	
いんぎん	2	うんぬん	2	ガ		3
隠元	2	縁	4	海棲	2	
インゲン	1	縁	2	海せい		2
いんげん	1	椽	1	解説	37	
因縁	8	えん	1	解説		34

かいせつ	3	カ国	17	我慢	21
街頭 10		か国	2	我慢	16
街頭	9	菓子 30		ガマン	1
ガイトイ	1	菓子	29	がまん	4
介抱 3		かし	1	花林糖 1	
介抱	2	加持 2		カリント糖	1
かいほう	1	カジ	2	羯磨 1	
皆目 4		箇所 34		カルマ	1
皆目	3	箇所	10	疳 2	
かいもく	1	個所	7	カン	2
潰瘍 2		カ所	12	勘 10	
カイヨウ	2	ヶ所	4	勘	4
傀儡 1		か所	1	カン	6
カライライ	1	箇条 5		罐 8	
界隈 3		個条	2	餽 4	4
界隈	2	カ条	2	罐 1	1
かいわい	1	ヶ条	1	カン 3	
豊饒 1		華燭 1		灌溉 8	
かくしゃく	1	華しょく	1	灌溉 7	
愕然 4		化織 24		カンガイ 1	
愕然	2	化織	23	間隔 5	
がく然	1	化セン	1	間隔 4	
ガクゼン	1	脚氣 2		かんかく 1	
格段 4		かっけ	2	宦官 3	
格段	3	括弧 2		官カン (ママ) 3	
かくだん	1	括弧	1	寒菊 1	
角逐 1		カッコ	1	寒ギク 1	
捨ちく (ママ)	1	恰好 26		環境 30	
格別 14		恰好	19	環境 29	
格別	13	格好	4	かんきょう 1	
かくべつ	1	かっこう	2	頑強 4	
箇月 122		かっかう	1	頑強 3	
カ月	104	箇日 2		がん強 1	
ヶ月	16	カ日	1	関係 259	
か月	2	ケ日	1	関係 257	
加減 28		箇年 20		々係 1	
加減	24	カ年	19	かんけい 1	
カゲン	1	ケ年	1	看護 36	
かげん	3	画鋲 1		看護 35	
箇国 19		画ビヨウ	1	かんご 1	

頑固 6		看板 9	気泡 2
頑固	4	カンパン 1	ホウ 1
がん固	1	乾瓢 3	基本 35
ガンコ	1	干瓢 2	基本 34
漢字 5		かんぴょう 1	キホン 1
漢字	3	勘弁 3	欺瞞 1
かんじ	2	勘弁 2	ギマン 1
鑑識 3		かんべん 1	氣味 33
鑑識	2	涵養 2	氣味 31
カンシキ	1	× 涵養 1	きみ 2
甘譜 2		かん養 1	疑問 30
甘譜	1	元来 13	疑問 29
カンショ	1	元来 12	ギモン 1
勘定 15		がんらい 1	華奢 3
勘定	14	陥落 6	華奢 2
かん定	1	陥落 5	キャシャ 1
肝腎 14		かんらく 1	給食 1
肝心	9	甘藍 1	きゅうしょく 1
肝じん	1	カンラン 1	経 17
かんじん	4	菊 20	経 16
灌水 5		菊 7	キョウ 1
灌水	3	キク 13	狹隘 1
カン水	1	機嫌 25	狹あい 1
かん水	1	氣嫌 4	競競 1
簡単 67		機嫌 16	きょうきょう 1
簡単	59	きげん 5	強韌 2
カンタン	1	気隨 1	強韌 1
かんたん	7	気つい 1	強じん 1
龜燈 3		犠牲 21	嬌声 2
龜燈	1	犠牲 20	嬌声 1
強盜燈	1	ギセイ 1	きょう声 1
ガンドウ	1	祈禱 5	競争 55
勘忍 4		祈禱 3	競争 54
勘忍	1	祈とう 2	キョウソウ 1
堪忍	2	危篤 2	兄弟 45
かんにん	1	キトク 2	兄弟 19
観念 14		揮発 5	兄妹 11
観念	13	揮発 3	姉弟 3
カンネン	1	キハツ 2	姉妹 7
看板 10		気泡 3	弟妹 2

きょうだい	3	クン	8	下カン	1
仰天 3		くん	1	劇甚 1	
仰天 2		軍配 6		激じん	1
ギョウテン 1		軍配	5	激励 12	
距離 23		グンバイ	1	激励	11
距離 22		経過 18		激れい	1
きょり 1		経過	17	怪訝 5	
気楽 10		ケイカ	1	怪訝	4
気楽 9		聲咳 1		けげん	1
氣らく 1		けいがい	1	袈裟 1	
麒麟 2		稽古 29		けさ	1
麒麟 1		稽古	26	景色 11	
キリン 1		ケイコ	1	景色	10
綺麗 59		けいこ	2	けしき	1
綺麗 6		螢光 11		下種 1	
キレイ 5		螢光	10	ゲス	1
きれい 48		ケイ光	1	下駄 9	
記録 67		掲載 12		下駄	7
記録 66		掲載	11	ゲタ	2
キロク 1		けいさい	1	結局 98	
均衡 13		珪酸 1		結局	95
均衡 12		けい酸	1	けっきょく	3
均こう 1		珪石 1		結構 30	
金團 1		けい石	1	結構	26
きんとん 1		野線 1		ケッコウ	2
銀杏 2		ケイ線	1	けっこう	2
銀杏 1		鶏頭 2		結核 1	
ギンナン 1		けいとう	2	結さつ	1
勤王 2		鶏糞 7		家来 6	
勤皇 1		鶏糞	5	家来	5
キンノー 1		鶏フン	2	けらい	1
孔雀 2		軽蔑 6		外連 1	
孔雀 1		軽蔑	4	ケレン	1
くじゃく 1		けいべつ	2	姫 1	
愚連隊 6		桂馬 2		ケン	1
愚連隊 1		ケイマ	2	喧嘩 40	
グレン隊 3		痙攣 4		喧嘩	32
ぐれん隊 2		痙攣	3	ケンカ	5
君 173		痙攣	3	けんか	3
君	164	下疳 1	1	狷介 1	
				けんかい	1

玄関	40	強姦	1	御殿	1
玄関	39	強カン	1	ご殿	5
げんかん	1	香番	1	御飯	32
元気	50	こうこ	1	御飯	20
元気	49	工事	35	ご飯	10
げんき	1	工事	34	ごはん	2
拳骨	2	こうじ	1	胡粉	3
拳骨	1	昂奮	31	胡粉	2
ゲンコツ	1	昂奮	11	ごふん	1
検疫	1	興奮	19	牛蒡	5
検タン	1	こうふん	1	ゴボウ	1
見幕	2	行李	6	ごぼう	4
けんまく	2	行李	4	胡麻	6
懸命	26	コウリ	2	胡麻	2
懸命	23	極楽	3	ゴマ	4
けんめい	1	極楽	2	五万	1
けんめい	2	ごくらく	1	ゴマン	1
絢爛	4	乞食	13	御免	25
絢爛	3	乞食	10	御免	2
けんらん	1	こじき	3	ご免	2
箇	97	胡椒	18	ゴメン	1
箇	17	胡椒	12	ごめん	19
個	74	コショウ	4	～（ご免）	1
コ	5	コショウ	2	御覽	38
ケ	1	後生	1	御覽	5
後	268	ご生	1	ご覽	7
後	267	炬燧	4	ごらん	26
ご	1	炬燧	2	今後	89
語	69	火燧	1	今後	83
語	68	こたつ	1	こんご	6
ご	1	元	1	懇懃	1
御	347	こつ	1	こんこん	1
御	245	滑稽	6	昏睡	1
ゴ	1	滑稽	5	こん睡	1
ご	101	こっけい	1	魂胆	3
劫	11	骨董	4	魂胆	2
劫	10	骨董	2	コンタン	1
コウ	1	コットウ	1	今度	222
業	1	こっとう	1	今度	139
ゴウ	1	御殿	6	こんど	83

今日	100		柵	5	さんざん	6
今日	97		サク	1	さんべ	1
こんにち	3		鑿井	1	蚕食	1
蒟蒻	6		さくせい	1	さん食	1
コンニャク	2		柵内	1	賛成	22
こんにゃく	4		さく内	1	賛成	21
困憊	2		柘榴	1	さんせい	1
困憊	1		ざくろ	1	燁然	2
コンパイ	1		些細	3	燁然	1
棍棒	3		些細	2	さんぜん	1
棍棒	2		さ細	1	惨憺	3
コン棒	1		沙汰	6	惨憺	2
焜炉	3		沙汰	4	サンタン	1
コンロ	3		サタ	1	残念	26
際	55		さた	1	残念	25
際	53		颶爽	9	ざんねん	1
さい	2		颶爽	5	字	40
最近	168		サッソウ	1	字	39
最近	165		さっそう	3	じ	1
さいきん	3		早速	38	直	5
細工	11		早速	18	ジカ	2
細工	10		さっそく	20	じか	3
さいく	1		三進	1	直き	11
賽銭	4		さっち	1	直き	2
賽銭	1		殺戮	1	じき	8
さい錢	1		殺りく	1	ぢき	1
さいせん	2		懺悔	5	辞儀	11
最中	23		懺悔	1	辞儀	9
最中	22		ざんげ	4	じぎ	2
さいちゅう	1		産経	11	刺激	26
済度	2		産経	6	刺戟	14
済度	1		サンケイ	5	刺激	9
さいど	1		珊瑚	4	刺撃	1
財布	9		珊瑚	2	シゲキ	1
財布	8		サンゴ	1	しげき	1
サイフ	1		さんご	1	至極	10
詐欺	7		散々	14	至極	9
詐欺	6		散々	1	しごく	1
サギ	1		散々	3	仔細	5
柵	6		さんざ	3	仔細	4

しさい	1	執拗 4		舍利 1	
獅子 8		執拗	3	シャリ	1
獅子	6	しつよう	1	洒落 17	
シシ	2	自分 618		洒落	4
事実 131		自分	612	シャレ	4
事実	130	じぶん	6	しゃれ	9
じじつ	1	時分 22		中 65	
始終 14		時分	18	中	53
始終	11	じぶん	4	じゅう	9
しじゅう	3	始末 53		ぢゅう	2
資生 1		始末	52	ぢう	1
シセイ	1	しまつ	1	酋長 6	
紫蘇 3		自慢 24		酋長	5
紫蘇	1	自慢	22	しゅう長	1
シン	1	自慢	1	充分 145	
しそ	1	じまん	1	充分	56
次第 94		射干 1		十分	88
次第	85	しゃが	1	じゅうぶん	1
々々(次第)	2	癪 1		收敛 3	
シダイ	1	シャク	1	收敛	1
しだい	6	石楠花 2		収レン	2
仕度 20		石楠花	1	溲瓶 2	
仕度	8	しゃくなげ	1	しびん	2
支度	11	芍藥 1		棕櫚 3	
したく	1	シャクヤク	1	棕櫚	1
翅膀 4		遮断 2		シュロ	1
シチョウ	1	遮断	1	しゅろ	1
シチョー	3	しゃ断	1	尊菜 2	
自嘲 4		遮二無二 4		じゅん菜	2
自嘲	3	遮二無二	2	春蘭 1	
自ちょう	1	シャニムニ	1	シェンラン	1
実 138		しゃにむに	1	礁 3	
実	130	娑婆 1		礁	2
じつ	8	シャバ	1	しょう	1
実際 96		邪魔 26		生姜 10	
実際	95	邪魔	24	生姜	9
じっさい	1	じゃま	2	しょうが	1
失踪 3		△三味線 8		蒸氣 4	
失踪	2	△三味線	6	蒸氣	3
失そう	1	さむせん	2	ジョーキ	1

猾猾 (～バエ) 1		真剣 26		推薦 12
ショウジヨウ	1	真剣	25	推セン 1
上手 36		しんけん	1	推せん 1
上手	35	新香 [△] 1		すいせん 1
じょうず	1	しんこ	1	水團 [△] 1
焼酎 8		斟酌 [△] 1		すいとん 1
焼酎	7	しんしゃく	1	隨分 63
ショウチュウ	1	繆薯 ^{△△} 1		隨分 12
銷沈 2		しんじょ	1	ずい分 12
消沈	1	身上 4		ずいぶん 38
ショウチン	1	身上	2	ずゐぶん 1
衝動 14		しんしょう	2	趨勢 [△] 1
衝動	12	津々 ^{△△} 3		すう勢 1
じょう動	1	津々	1	図体 [△] 4
じょうどう	1	しんしん	2	図体 3
醤油 36		親戚 [△] 7		ズービー 1
醤油	29	親戚	5	頭巾 [△] 6
しょう油	1	親セキ	2	頭巾 5
ショウユ	3	腎臓 [△] 10		ずきん 1
しょうゆ	3	腎臓	7	素つ頓狂 1
淨瑠璃 ^{△△} 3		ジン臓	1	素とん狂 1
淨瑠璃	2	じんぞう	2	所為 [△] 46
淨るり	1	真鑑 [△] 2		所為 2
徐々 6		真鑑	1	故 1
徐々	5		1	セイ 1
じょじょ	1	心配 95		せい 40
所詮 [△] 8		心配	94	せゐ 2
所詮	4	シンパイ	1	精 16
しょせん	4	心棒 1		精 12
しょっちゅう 7		しん棒	1	せい 4
しょっ中	2	辛辣 [△] 5		声樂 5
しょっちゅう	5	辛辣	4	声樂 4
芯 [△] 40		辛らつ	1	シェイ樂 1
芯	22	髓 2		成功 69
蕊	1	髓	1	成功 68
心	15	ズイ	1	セイコウ 1
シン	2	水仙 [△] 7		精魂 2
塵埃 ^{△△} 2		水仙	6	精魂 1
塵埃	1	スイセン	1	精こん 1
ジンアイ	1	推薦 15		清々 3

清々	1	せっけん	2	セン光	1
せいせい	2	切実	6	織細	6
精々 12		切実	5	織細	5
精々	4	セツジツ	1	せんさい	1
せいぜい	6	拙者	7	扇子	3
せいへい	2	拙者	6	扇子	2
贅沢 11		せっしゃ	1	センス	1
贅沢	6	絶大	3	先生	261
ゼイ沢	1	絶大	2	先生	259
ゼイタク	3	ぜつ大	1	センセ	1
ぜいたく	1	絶対	75	せんせい	1
贅肉 3		絶対	70	全然	65
贅肉	2	絶体 (ママ)	2	全然	55
ぜい肉	1	ゼッタイ	1	全々	1
征伐 3		ぜったい	2	ぜんぜん	9
征伐	2	接吻	19	喘息	7
せいばつ	1	接吻	16	喘息	2
脊髄 4		せっぷん	3	ぜんそく	5
脊髄	1	是非	46	全体	88
セキ髄	2	是非	22	全体	87
セキズイ	1	是否	1	ぜんたい	1
世辞 9		ぜひ	23	洗濯	47
世辞	8	世話	46	洗濯	35
せじ	1	世話	45	洗たく	2
世上 3		せわ	1	センタク	6
世上	2	線	296	せんたく	4
せじょう	1	線	295	選抜	4
節介 3		セン	1	選抜	3
節介	1	銭	28	センバツ	1
せっかい	2	銭	27	煎餅	1
折角 43		セン	1	せんべい	1
折角	14	栓	4	相	340
せっかく	29	栓	3	相	3
雪渓 1		セン	1	そう	317
雪ケイ	1	纖維	56	さう	20
石鹼 16		纖維	54	草	11
石鹼	5	線維	1	草	7
石ケン	2	センイ	1	ソウ	3
石けん	5	閃光	2	サウ	1
セッケン	2	閃光	1	筝曲	3

争曲	2	ぞんぶん	1	堆肥	7
そう曲	1	駄	2	タイ肥	2
掃除	16	駄	1	大分	45
掃除	14	ダ	1	大分	28
そうじ	2	第一	27	だいぶ	17
雑炊	1	第一	26	大変	114
ぞうすい	1	だいいち	1	大変	82
早々	17	大概	4	大へん	11
忽々	1	大概	2	タイヘン	1
早々	15	大がい	1	たいへん	20
そうちう	1	たいがい	1	太陽	74
相当	126	太鼓	17	太陽	73
相当	121	太鼓	12	タイヨウ	1
そうちう	5	大鼓(ママ)	1	沢庵	6
搔爬	1	タイコ	4	沢庵	1
そうちは	1	大根	29	タクアン	2
素麺	1	大根	22	たくあん	3
そうちめん	1	ダイコン	7	沢山	81
族	32	大事	39	沢山	34
族	31	大事	38	たくさん	47
ゾク	1	だいじ	1	他犬	1
続続	7	大切	74	他ケン	1
続続	1	大切	69	蛇足	2
続々	4	たいせつ	5	蛇足	1
ぞくぞく	2	大層	8	ダソク	1
素朴	15	大層	3	多分	37
素朴	14	大そう	3	多分	29
そぼく	1	たいそう	2	たぶん	8
粗末	12	大体	100	拿捕	2
粗末	9	大体	75	拿捕	1
ソマツ	1	だいたい	25	だ捕	1
そまつ	2	大抵	38	堕落	3
算盤	8	大抵	10	堕落	2
△算盤	1	大低(ママ)	2	ダラク	1
ソロバン	7	大てい	5	△達磨	6
遙色	2	たいてい	21	ダルマ	5
遊色	1	頬廢	5	だるま	1
ソン色	1	頬廢	4	痰	7
存分	5	タイハイ	1	痰	2
存分	4	堆肥	9	タン	5

单に, なる	53	たんねん	1	抽籤	4
单	1	蛋白	18	抽籤	2
单に	30	蛋白	12	抽せん	2
单なる	19	タン白	1	躊躇	5
たんに	2	タンパク	5	躊躇	4
たんなる	1	知恵	10	チュウチョ	1
彈圧	3	智慧	2	挺	12
彈圧	2	智恵	5	挺	7
だんあつ	1	知慧	1	丁	4
彈劾	4	知恵	1	ちょう	1
彈劾	3	チエ	1	長	164
弾ガイ	1	逐一	2	長	163
箪笥	9	逐一	1	ちょう	1
箪笥	4	チクイチ	1	頂戴	18
タンス	4	畜生	11	頂戴	10
たんす	1	畜生	9	頂だい	1
湛水	2	々々(畜生)	1	ちょうだい	7
湛水	1	チク生	1	提灯	6
タン水	1	馳走	14	提灯	5
断然	6	馳走	11	チョウチン	1
断然	5	ちそう	3	猪口	1
だんぜん	1	窒素	6	ちょこ	5
歎息	2	窒素	4	陳腐	2
歎息	1	チップ	2	陳腐	1
タンソク	1	茶褐	2	チンブ	1
段々	57	茶褐	1	突懸貪	1
段々	5	茶かつ	1	突けんどん	1
だんだん	48	茶匙	4	都度	5
だんへ～	4	茶匙	2	都度	4
旦那	1	茶さじ	2	つど	1
ダンツァー	1	茶碗	19	態	5
探偵	17	茶碗	11	態	3
探偵	16	茶椀	3	体	1
タンティ	1	茶わん	5	てい	1
旦那	50	治癒	4	程度	142
旦那	47	治癒	3	程度	137
ダンナ	2	治ゆ	1	ていど	5
だんな	1	抽出	2	停屯	2
丹念	3	抽出	1	停屯	1
丹念	2	ちゅう出	1	停とん	1

叮寧	22	どうし	3	とくべつ	3
叮寧		当然	84	匿名	5
丁寧	10	当然	83	匿名	4
ていねい	11	とうぜん	1	とくめい	1
敵愾	2	満天星	2	時計	28
敵愾	1	満天星	1	時計	26
敵がい	1	どうだん	1	とけい	2
覗面	2	到底	13	屠殺	3
てき面	1	到底	6	屠殺	2
てきめん	1	とうてい	7	と殺	1
天辺	1	滔々	4	屠蘇	2
てっぺん	1	滔々	1	屠蘇	1
鉄砲	10	トウトウ	2	トソ	1
鉄砲	9	とうとう	1	途端	28
てっぽう	1	到頭	33	途端	8
天狗	14	遂々	1	トタン	6
天狗	12	とうとう	28	とたん	14
テング	1	とう～	4	屠畜	1
てんぐ	1	登攀	3	と畜	1
転倒	4	登攀	2	咄嗟	8
顛倒	2	登はん	1	突嗟	1
転倒	1	豆腐	18	突差	1
てんとう	1	豆腐	16	とっさ	6
天秤	1	トウフ	2	突如	11
てんびん	1	東宝	36	突如	10
田駄	1	東宝	35	とつじょ	1
でんぶ	1	トーホー	1	突然	38
度	394	当用	2	突然	36
度	384	当用	1	とつぜん	2
々(度)	1	とうよう	1	訥弁	1
ど	9	特	185	トツ弁	1
堂	27	特		頓	4
堂	26	とく	65	とみ	4
ドー	1	篤	1	銅鑼	1
道具	23	トク	1	ドラ	1
道具	22	得	11	頓狂	1
どうぐ	1	得	10	トンキョウ	1
同志	29	トク	1	頓平	1 (店名)
同士	16	特別	71	とん平	
同志	10	特別	68	頓馬	2

とん馬	1	杯	1	バッコ	1
とんま	1	ハイ	3	抜萃	3
乃至 33		はい	7	抜萃	1
乃至	7	媒介 2		抜粹	1
ないし	26	媒介	1	抜すい	1
内所 9		バイ介	1	拔擢	11
内所	1	背囊 1		拔擢	10
内緒	5	背のう	1	拔てき	1
内証	1	莫迦 64		法被	2
内しょ	1	馬鹿	28	法被	1
ないしょ	1	バカ	28	ハッピ	1
納豆 6		ばか	8	濱瀬	10
納豆	4	破壊 16		濱刺	2
ナット	1	破壊	15	濱刺	5
ナットー	1	破かい	1	発刺	1
南無 6		箔 2		ハツラツ	2
南無	3	箔	1	波乱	6
ナム	3	ハク	1	波瀾	1
二進 1		白菜 8		波乱	4
にっち	1	白菜	7	波らん	1
入内（～雀） 1		ハクサイ	1	反駁	4
ニュウナイ	1	莫大 6		反駁	3
人参 16		莫大	3	反ばく	1
人参	11	ばく大	2	頒布	1
ニンジン	3	ばくだい	1	はん布	1
にんじん	2	曝露 10		半平	1
大蒜 8		曝露	1	半ペん	1
にんにく	8	暴露	7	氾濫	2
臍腫 1		バクロ	1	ハン乱	1
ノウシュ	1	ばくろ	1	はんらん	1
暖簾 6		博労 2		伴侶	1
暖簾	2	博労	1	伴りょ	1
ノレン	2	バクロウ	1	蟲貫	6
のれん	2	鉢 8		蟲貫	1
香氣 11		鉢	7	ヒイキ	1
香氣	4	ばち	1	ひいき	4
ノンキ	4	発 35		匕首	1
のんき	3	発	34	ひ首	1
杯 108		はつ	1	非常	214
杯	97	跋扈 1		非常	206

ひじょう	8	便セン	1	ふしぎ	16
× 础素 5		× 頻発 2	1	普段 18	
× 础素	2	× 頻発	1	普段	5
ヒ素	1	ひん発	1	普断	2
ヒソ	2	× 頻繁 3	1	ふだん	11
畢竟 2		× 頻繁	1	仮 4	
ひっきょう	2	× 頻ぱん	1	仮	2
皮肉 17		ひんぱん	1	ブ	2
皮肉	16	無 20		普通 116	
ヒニク	1	無	8	普通	108
皮膚 26		△ 不	10	ふつう	8
皮膚	17	ぶ	2	× 葡萄 38	
ヒフ	9	不意 15		葡萄	12
表 50		不意	10	ブドウ	15
表	49	ふい	5	ブドー	2
ひょう	1	風 119		ぶどう	9
病院 71		風	77	蒲団 31	
病院	70	ふう	42	蒲団	7
びょういん	1	× 瘋顛 2		布団	14
剥輕 2		ふうてん	2	フトン	4
ひょうきん	2	風靡 3		ふとん	6
披露 18		風靡	2	赴任 6	
披露	17	フウビ	1	赴任	5
ひろう	1	孵化 3		ふ任	1
品 108		孵化	2	腐敗 6	
品	107	フ化	1	腐敗	5
ひん	1	× 僥瞰 1		フハイ	1
瓶 22		フカン	1	孵卵 1	
瓶	17	不羈 3		フ卵	1
壙	3	不羈	2	分 142	
ピン	1	不キ	1	分	140
びん	1	無器用 1		ぶん	2
鬢 2		ぶきっちょ	1	粪 (珍～漢) 1	
ビン	2	服 51		パン	1
螺旋 1		服	50	霧悶氣 41	
ひんしゅく	1	ふく	1	霧悶氣	36
敏捷 1		福寿 1		ふん悶氣	1
敏しょう	1	フクジュ	1	ふんい気	2
便箋 5		不思議 81		ふんいき	2
便箋	4	不思議	65	憤慨 8	
				憤慨	6

フンガイ	1	僻地	3	へんにゅう	1
ふんがい	1	へき地	1	片鱗	2
分蘖 9		別 163	159	片鱗	1
分けつ	9	別	4	片りん	1
文章 22		べつ		遍歷	3
文章	21	別嬪	1	遍歷	2
ぶんしょう	1	別嬪	1	へん歴	1
憤然 4		べっぴん	1	堡	4
憤然	3	別々	13	堡	3
フン然	1	別々	2	ほ	1
扮装 3		べつべつ		方	684
扮装	2	反吐	1	方	557
ふん装	1	へど	1	ほう	124
ふんだんに 5		辺 45		はう	3
フンダンに	1	辺	36	防禦	7
ふんだんに	4	ヘン	1	防禦	5
奮闘 4		へん	8	防御	1
奮闘	3	遍	2	防ぎよ	1
フントウ	1	遍	2	茫然	13
分銅 2		ペン	4	呆然	8
分銅	1	べん	1	茫然	4
ふんどう	1	変 37		ボウ然	1
憤懣 5		変	25	縄帶	8
憤懣	1	ヘン	7	縄帶	5
忿懣	2	へん	5	ホウタイ	3
憤満	1	勉強	61	褒美	4
ふんまん	1	勉強	60	褒美	3
帰 12		べんきょう	1	ホウビ	1
帰	10	返事	58	方々	12
ハイ	1	返事	54	方々	11
へい	1	返辞	3	ほうぼう	1
閉口 7		へんじ	1	波穠(～草)	3
閉口	6	編集	63	ホウレン	1
へいこう	1	編輯	6	ほうれん	2
兵隊 19		編集	56	僕	508
兵隊	18	へんしう	1	僕	344
兵タイ	1	麦哲	1	ボク	11
辟易 1		ヘンテツ	1	ぼく	153
ヘキエキ	1	編入	5	勃起	4
僻地 4		編入	4	ぼっ起	4

補填	3		まんが	3	冥途	1	
補填		2	饅頭	5	めいど		1
補てん	1		饅頭		銘々	5	
法螺	2		まんじゅう	3	銘々		1
法螺	1		蜜柑	19	めいめい		4
ホラ	1		蜜柑		名優	7	
捕虜	11		蜜柑		名優		6
捕虜	10		ミカン	2	メイ優		1
捕りよ	1		みかん	8	迷惑	18	
本(の)	24		微塵	13	迷惑		17
本	1		微塵		メイワク		1
ほん	23		みじん	11	滅相	2	
盆	10		妙法	2	滅相		1
盆	8		妙法		めっそ		1
ぼん	2		ミョウホー	1	瑪瑙	2	
本当	188		無垢	4	瑪瑙		1
本当	93		無垢	3	メノー		1
ホント	4		ムク	1	面	116	
ほんと	43		無下	1	面		115
ほんとう	44		ムゲ	1	めん		1
ほんたう	3		矛盾	18	面倒	22	
ふんと	1		矛盾		面倒		19
ぽんぽん	1		ムジュン	1	メンド		1
ぽんぽん	1		無性	2	めんどう		2
翻弄	2		無性		面々	3	
翻弄	1		ムショウ	1	面々		2
ほんろう	1		夢中	34	メンメン		1
毎度	5		夢中		麵類	2	
毎度	4		むちゅう	1	メン類		1
まいど	1		謀叛	2	めん類		1
摩擦	2		むほん	2	濛々	2	
摩擦	1		無理	86	濛々		1
マサツ	1		無理		もうへ		1
麻痺	8		ムリ	75			
麻痺	3		むり	6	朦朧	1	
マヒ	4		無論	37	もうろう		1
まひ	1		無論		黙々	5	
漫画	17		むろん	12	黙々		4
漫画	13		頬虫	25	もくもく		1
マンガ	1		メイ虫	3	勿	1	
					モチ		1

勿論	150		ヤロ	1	ヨク	1
勿論	38		やろう	1	余計	29
モチロン	1	優	4		余計	19
もちろん	110	優	3		よけい	10
もっちろん	1	ゆう	1	磊落	3	
勿体	3	憂鬱	1	磊落	2	
もったい	3	ユーワツ	1	ライラク	1	
木綿	30	有益	2	樂	35	
木綿	29	有益	1	樂	29	
もめん	1	ゆうえき	1	ラク	2	
模様	88	誘拐	16	らく	4	
模様	86	誘拐	15	駱駝	2	
もよう	2	ユーカイ	1	ラクダ	2	
閑着	2	幽靈	7	埒	3	
閑着	1	幽靈	6	埒	1	
もんちゃく	1	ゆうれい	1	ラチ	1	
夜蛾	1	愉快	13	やっち（方言）	1	
ヤガ	1	愉快	12	辣堇	1	
葉籠	4	ユカイ	1	らっきょう	1	
葉籠	3	葉	3	爛漫	1	
やかん	1	葉	2	ランマン	1	
野菜	22	ヨウ	1	爛爛	1	
野菜	20	様	2775	らんらん	1	
ヤサイ	2	様	81	理屈	22	
椰子	2	ヨウ	2	理窟	5	
椰子	1	ヤウ	1	理屈	12	
やし	1	よう	2524	理くつ	3	
厄介	15	やう	167	リクツ	2	
厄介	14	用意	43	利權	2	
やっかい	1	用意	42	利權	1	
躍起	4	ヨーイ	1	リケン	1	
躍起	1	邀撃	1	利口	11	
躍氣（ママ）	1	よう撃	1	利口	7	
ヤッキ	1	様子	58	利巧	3	
やっき	1	様子	50	りこう	1	
野暮天	1	容子	1	離脱	1	
やぼ天	1	ようす	7	リダツ	1	
野郎	22	慾	9	立派	71	
野郎	19	慾	4	立派	64	
ヤロー	1	欲	4	リッパ	1	

りっぱ	6	りんどう	5	恋慕	1
立金花 1		姉肥 1		れんば	1
リュウキンカ	1	りん肥	1	櫻 2	
柳眉 1		淋病 2		櫻	1
柳ビ	1	淋病	1	ろ	1
量見 8		リン病	1	聾啞 3	
量見	1	凜々 1		聾啞	1
料簡	2	りんりん	1	ろう啞	2
了簡	3	留守番 3		蟬顎 4	
了見	1	留守番	1	蟬顎	1
りょうけん	1	るす番	1	ローケツ	1
姉 2		るすばん	1	ろうけつ	2
姉	1	縷々 3		蠟燭 6	
リン	1	縷々	2	蠟燭	4
輪郭 4		ルル	1	ローソク	2
輪郭	1	荔枝 1		祿 3	
輪郭	1	レイシ	1	祿く	2
輪かく	1	礼状 2		ろく	1
りんかく	1	礼状	1	碌 8	
林檎 18		礼じょう	1	碌	1
林檎	3	歷 1		ロク	3
りんご	8	レッキ	1	ろく	4
りんご	7	煉瓦 11		録音 18	
林檎園 2		煉瓦	4	録音	17
リンゴ園	2	レンガ	5	ロクオン	1
磷酸 7		れんが	2	碌々 3	
磷酸	5	蓮華 3		碌々	1
リン酸	1	蓮華	1	ろくろく	2
リンサン	1	レンゲ	2	猥褻 1	
淋疾 1		連載 20		ワイセツ	1
りん疾	1	連載	19	椀 16	
咨齧 2		れんさい	1	椀	10
咨齧	1	憐愍 1		椀	2
咨しょく	1	れんびん	1	わん	4
龍胆 5		恋慕 2			

第2表 漢字表記のあいだでゆれのある語の表

愛嬌 3	愛敬 2	愛き	愛慾 1	愛欲 4	ほお 1
よう 1			阿呆 5	阿房 2	按排 1
愛想 8	愛相 1		オ 1	あほう 1	案配 1 アン

異郷	1	異境	1		こう	3		1		吸收	16	吸集	1
意氣地	4	意地	1		合財	2	合切	1		共演	13	協演	1
意志	28	意思	12		潤達	1	闊達	6		強豪	3	強剛	1
衣裳	15	衣装	5		活潑	3	活發	1		矜持	1	矜持	1
遺蹟	2	遺跡	10		恰服	1	恰幅	1		業蹟	1	業績	39
位置	79	位地	1		花道	2	華道	2		兄妹	11	姉弟	3
一緒	104	一所	1	一し	花房	1	果房	1		19	姉妹	7	
	よ	15	いっしょ	25	錠	1	罐	4	カン	きよ	うだい	3	
一齊	6	一勢	1	いっせい	管括	1	管轄	8		驚歎	1	驚嘆	3
					関係	257	々係	1	かん	技術	2	技量	1
					けい	1				禁錮	3	禁固	1
意慾	3	意欲	17		管絃	2	管弦	4		偶然	17	遇然	2
雨季	1	雨期	1		監視	9	看視	1		区劃	2	区画	1
有頂天	7	有頂点	1		觀取	1	看取	1		屈託	1	屈託	1
縁	1	縁	2	えん						群集	4	群衆	11
掩護	2	援護	3		観賞	2	鑑賞	7		形式	30	型式	1
応対	3	応待	6		龕燈	1	強盜燈	1	ガ	繫争	1	係争	2
臆測	1	憶測	2	おく	ンドウ	1				経路	3	径路	1
そく	1				勘忍	1	堪忍	2	かん	激闘	1	激斗	1
臆病	4	憶病	1		にん	1				結願	1	結果	118
臆劫	1	億劫	1	おっくう	完璧	2	完璧	1		激昂	2	激亢	1
					貫祿	2	貫錄	5		決闘	2	決斗	3
穏和	1	温和	1		機	197	器	45		結論	26	決論	2
改札	5	開札	1		儀	4	義	1		剣	10	刃	1
解釈	21	語釈	1		気運	3	機運	1		源	3	原	1
会心	3	快心	1		機械	77	器械	3		健実	1	堅実	13
廻転	9	回転	14		奇怪	1	奇ッ怪	1		減少	22	減小	1
概念	8	概念	1		器管	1	器官	3		喧噪	3	喧騒	1
恢復	5	回復	28	快復	器具	14	機具	4		現像	3	現象	3
1					気嫌	4	機嫌	16	きげ	捲土	1	卷土	1
潰滅	2	壊滅	1		ん	5				拳闘	5	拳斗	1
瓦解	1	瓦壊	1		機材	1	器材	1		健闘	4	健斗	1
夏期	3	夏季	1		技師	9	技士	1		眩惑	1	幻惑	2
確信	17	確心	1		基準	26	規準	1		箇	17	個	74
苛酷	2	過酷	2		奇蹟	7	奇跡	1		ケ	1		コ
呵責	1	苛責	2		偽裝	4	擬裝	2		幸運	13	好運	1
個所	7	箇所	10	力所	氣魄	1	氣迫	1		豪快	3	剛快	1
12	ヶ所	4	か所	1	寄付	4	寄附	4		好箇	1	好個	2
過少	3	過小	1		擬名	1	偽名	1		囂々	1	囂々	2
割期	1	画期	11		急遽	1	急拋	1		交叉	16	交差	1
恰好	19	格好	4	かつ	究極	1	窮極	1					

公算	7	功算	1	屍体	1	死体	12	所々	2	処々	1
強情	4	剛情	1	肢體	1	肢體	4	抒情	4	叙情	1
交代	7	交替	3	次第	85	々々	2	心	22	蕊	1
宏大	1	廣大	7	イ	1	しだい	6	シン	2	心	15
広汎	3	廣範	1	仕度	8	支度	11	仁	3	人	2
昂奮	11	興奮	19	く	1	した		芯地	3	心地	1
ふん	1			実情	12	実状	4	心身	3	身心	4
互格	1	互角	4	弱小	4	弱少	1	人世	1	人生	48
固形	2	固型	1	若年	1	弱年	1	伸長	3	伸張	1
炬燧	2	火燧	1	車輛	5	車両	12	進展	6	伸展	1
つ	1			首位	11	主位	1	滲透	1	浸透	4
御免	2	ご免	2	收穫	16	収獲	6	振動	5	震動	2
1	ゴメン	1	ごめん	仇着	1	執着	7	辛抱	6	辛棒	1
19				蒐集	7	蒐収	1	訊問	1	尋問	2
雇傭	1	雇用	11	絨氈	2	絨毯	1	図会	1	図絵	2
根元	2	根源	8	周知	8	衆知	1	所為	2	故	1
潤濁	1	混濁	2	周年	4	週年	1	1	せい	40	せぬ
根抵	1	根底	2	充分	56	十分	88	生育	11	成育	1
才	197	歳	105	うぶん	1			青眼	1	星眼	2
差異	5	差違	1	踩躡	2	踩躡	1	生彩	1	精彩	1
細君	11	妻君	4	習練	1	修練	7	生産	159	製産	2
採光	2	彩光	1	主旨	1	趣旨	2	成長	33	生長	9
作成	8	作製	2	珠數	2	數珠	1	生命	29	性命	1
作戦	26	策戦	1	首脳	11	主脳	1	絶対	70	絶体	2
撮影	105	撮映	1	純真	3	純心	1	タイ	1	ぜったい	2
剝到	1	殺到	9	症	25	性	1	窃盜	6	竊盜	1
雜沓	1	雜踏	2	莊	1	庄	1	是非	22	是否	1
沙漠	2	砂漠	3	障礙	2	障害	18	23			
慘虐	2	残酷	4	状況	32	情況	1	纖維	54	線維	1
惨酷	1	残酷	3	状景	1	情景	3	イ	1	イ	1
散散	1	散々	3	賞讃	1	賞賛	3	選考	4	選衡	1
ざ	3	さんざん	6	召集	6	招集	2	全然	55	全々	1
さん	~	1		情勢	19	状勢	3	ぜん	9	ぜん	1
讚美	3	贊美	1	焦躁	2	焦燥	1	戦斗	1	戦闘	21
撒布	9	散布	4	象徵	15	象徵	1	煽動	1	扇動	1
時	235	(KW) H	3	蒸溜	1	蒸留	1	千篇	1	千遍	1
刺戟	14	刺激	9	植民	11	殖民	1	相違	28	相異	1
1	シゲキ	1	しげき	食慾	1	食欲	13	奏効	1	奏功	1
1				食糧	18	食料	2	綜合	18	総合	16
指呼	1	指顧	1	書齋	1	書斎	4	造作	3	雑作	1

惣菜	1	惣菜	2		丁	4	町	10		1	内しょ	1	ないし
忽々	1	早々	15	そう	徴候	3	兆候	2		よ	1		
そう	1				長篇	1	長編	2		難行	2	難航	1
速製	1	即製	1		追求	14	追及	2		肉薄	2	肉迫	1
統統	1	統々	4	ぞく	態	3	体	1	てい	日魯	7	日露	4
ぞく	2				低温	3	底温	1		年期	6	年季	1
卒直	8	率直	3		定型	6	定形	1		捻挫	1	捻座	1
代 ^x	67	台	19		定著	1	定着	3		年年	1	年々	15
退窟 ^x	1	退屈	5		鄭重 ^x	1	丁重	2		年輩	1	年配	3
太古	1	大古	1		叮嚀	1	丁寧	10	てい	年齢 ^x	12	年令	12
太鼓	12	大鼓	1	タイ	ねい	11				脳裡 ^x	1	脳裏	4
コ	4				低迷	5	停迷	1		廃墟 ^x	2	廃虚	1
対照	13	対象	1		転機	3	転期	1		白堊 ^x	2	白堊	1
大抵 ^x	10	大低	2	大て	電氣	52	電機	1		迫心 ^x	1	迫真	1
い	5	たいてい	21		電機	11	電器	3		曝露 ^x	1	暴露	7 バク
擡頭 ^x	2	台頭	1		典型	9	典型	1		口 ^x	1	ばくろ	1
待避 ^x	2	退避	1		天守 ^x	2	天主	1		抜萃 ^x	1	抜粹	1
颱風 ^x	8	台風	6		顛倒 ^x	2	転倒	1	てん	い ^x	1		
拓殖	1	拓植	3		と ^x	1				潑刺 ^x	2	潑刺	5
惰性	2	堕性	1	惰勢	電燈 ^x	6	電燈	13		発刺 ^x	1	ハツラツ	2
1					顛覆 ^x	1	転覆	2	9	波瀾 ^x	1	波乱	4
歎願 ^x	1	嘆願	3		度 ^x	334	々	1	ど	ん	1	波ら	
歎声 ^x	2	嘆声	2		灯 ^x	9	燈	9		判 ^x	3	はん	1
短篇 ^x	1	短編	2		灯火 ^x	4	燈火	2		判 ^x	5	版	4
煖房 ^x	8	暖房	4		冬季 ^x	4	冬期	1		反映 ^x	13	反影	1
鍛練 ^x	3	鍛鍊	4		統禦 ^x	1	統御	1		繁昌 ^x	3	繁盛	4
智 ^x	2	知 ^x	3		闘魂 ^x	1	斗魂	1		蕃殖 ^x	2	繁殖	8
智慧 ^x	2	智恵	5	知慧 ^x	闘志 ^x	4	斗志	1	どう	反撥 ^x	4	反発	5
1	知恵	1	チエ	1	同士	16	同志	10		反復 ^x	1	反覆	1
畜生	9	々々	1	チク	し	3				叛亂 ^x	4	反乱	2
生	1				頭身 ^x	8	等身	1		秘訣 ^x	3	秘決	1
智識 ^x	1	知識	40		灯台 ^x	3	燈台	5		筆蹟 ^x	1	筆跡	1
智能 ^x	1	知能	3		等等	1	等々	7		匹敵 ^x	4	必敵	1
茶碗 ^x	11	茶椀	3	茶わ	特殊	38	特種	1		非難 ^x	19	批難	2
ん	5				特徵	23	特長	14		表札 ^x	1	標札	1
註 ^x	2	注	18		獨得 ^x	4	独特	10		表題 ^x	1	標題	1
中間 ^x	2	仲間	2		呶号 ^x	1	怒号	1	とつ	瓶 ^x	17	壠 ^x	3 ピン
註文 ^x	2	注文	23		突嗟 ^x	1	突差	1		びん	1		
挺帖 ^x	7	丁	4	ちょう	さ ^x	3				△不 ^x	10	無歩	8 ぶ 2
帖	1	帳	12		土堤 ^x	1	土手	7		分 ^x	205	歩	1
					内訌 ^x	1	内緒	5	内所				

諷刺	2	風刺	1		膨脹	1	膨張	1		熔融	1	溶融	1
附近	21	付近	17		翻案	1	翻案	2		預金	16	予金	3
不具	5	～	2		本誌	49	本紙	1		慾	4	欲	4
不精	1	無精	4		翻訳	6	翻訳	4		慾望	2	欲望	13
付属	8	附属	8		末	42	未	1		余裕	29	予猶	1
普段	5	普断	2	ふだん	麻薬	7	魔薬	2		羅生	3	羅城	1
ん	11				満	14	万	1		乱用	4	滥用	3
付着	2	附着	1		慢性	10	漫性	1		裡	1	裏	3
蒲團	7	布団	14	フト	満点	4	萬点	1		力倅	1	力量	2
ン	4	ふとん	6		蜜柑	3	密柑	6	ミカ	理窟	5	理屈	12
賦与	1	付与	1		ン	2	みかん	8		つ	3	リクツ	2
不要	2	不用	2		味醠	4	味淋	2		利口	7	利巧	3
付録	1	附録	2		無慚	1	無慘	5	無残	う	1		
憤煙	1	噴煙	1			1				漁	2	獵	1
忿懥	2	憤懥	1	憤満	無体	2	無態	1		諒解	4	了解	4
1	ふんまん	1			無智	2	無知	5		料簡	2	了簡	3
篇	16	編	19		無謀	4	無暴	1		量見	1	りょうけ	
返事	54	返辞	3	へん	名義	5	名儀	1		ん	1		
じ	1				棉花	3	綿花	5		諒承	1	了承	2
編輯	6	編集	56	へん	躍起	1	躍氣	1	ヤッ	輪廓	1	輪郭	1
しう	1				キ	1	やっき	1		く	1	りんかく	1
变速	2	変則	1		悠悠	1	悠悠	6		怜惻	1	怜利	1
防禦	5	防御	1	防ぎ	予	7	余	7		聯合	1	連合	27
咆哮	1				要尺	10	用尺	15		聯珠	1	連珠	1
呆然	2	咆吼	1		要心	1	用心	10		聯想	2	連想	13
然	1				様子	50	容子	1	よう	聯隊	3	連隊	2
龐大	2	老大	2	膨大	す	7				聯盟	1	連盟	20
2					接	3	溶接	1		路地	7	露地	6
庖丁	7	包丁	2		舡	1	用船	1		椀	10	碗	4